



東京上野本店 (The シカゴビル)

OPEN: 12:00~20:00 (年中無休)

〒110-0005 東京都台東区上野1-12-7

TEL.03-5818-1123 FAX.03-5818-1124

E-mail: chicago@regimentals.jp

シカゴブログ連載中!! <http://regimentals.jugem.jp>

モバイルブログは右のQRコードからアクセスして下さい。

東京上野本店一階に古式銃専門店 The Chicago Gallery もございます。



大阪店 (丸町一丁目ビル 4階)

OPEN: 12:00~20:00 (お正月休みを除く年中無休)

〒541-0048 大阪市中央区瓦町1-5-14

TEL.06-6223-9070 FAX.06-6223-9071

www.regimentals.jp

2016.12.28

定価 300円(税込)

Gazette Vol.14

The Annual Booklet for Deactivated Weapons and Antique Firearms Collectors



WINCHESTER

THE AMERICAN LEGEND

Henry Rifles, M1866 Yellow Boy Carbines,

M1873 Rifle & Carbine, and M1894 Rifles

Chicago *Regimentals* Co., Ltd.

株式会社 シカゴレジメンタルス

Deactivated Weapons, Decksammelerwaffen, Armes neutralisées

Table of Contents - 目次

U. S. Carbine, Caliber .30, M1.....	Page 03
U. S. Rifle, Caliber .30, M1.....	Page 04
U. S. Carbine, Caliber .30, M2.....	Page 05
United Defense M42 Sub Machinegun.....	Page 06
Armalite AR-10 "Sudanese" Model Mfd. by A. I.....	Page 07
Armalite AR-10 "Portuguese" Model Mfd. by A. I.....	Page 08
Barrett Firearms Manufacturing M82A1.....	Page 09
Browning Machine Gun, Caliber .50 HB, M2.....	Page 10
Karabiner 98 kurz.....	Page 11
Heckler & Koch Gewehr 3 A3.....	Page 12
Maschinenpistole 28 II.....	Page 13
Bergmann Maschinenpistole 35/I.....	Page 14
Maschinenpistole 38.....	Page 15
Maschinenpistole 40I.....	Page 16
Maschinenpistole 41.....	Page 17
Maschinengewehr Solothurn 1930.....	Page 18
Carcano Mod. 91/38 Cal. 6.5.....	Page 19
Moschetto Automatico Beretta (MAB) Mod. 1938A.....	Page 20
Carbine, Machine, Sten, 9mm., Mk. II.....	Page 21
Carbine, Machine, Sten, 9mm., Mk. V.....	Page 22
Short, Magazine Lee-Enfield Rifle No.1 Mk III.....	Page 23
Short, Magazine Lee-Enfield Rifle No.4 Mk I*.....	Page 24
L37A1 General Purpose Machine Gun.....	Page 25
Interarms Cadet Rifle.....	Page 26
Pistola Metralhadora FBP m/948.....	Page 27
Subfusil Star Z-70/B.....	Page 28
Schmidt-Rubin Gewehrssystem.....	Page 29
7,5 mm Maschinengewehr Modell 1911.....	Page 30
7,62-мм винтовка образца 1891/30 года.....	Page 31
7,62-мм карабин образца 1944 года.....	Page 32
7,62-мм пистолет-пулемёт образца 1941 года системы Шпагина.....	Page 33
7,62-мм пистолеты-пулемёты образцов 1943 годов системы Суляева.....	Page 34
7,62-мм танковый пулемёт системы Дегтярёва обр.929 г.....	Page 35
7,62-мм Дегтярёва танковый модернизированный.....	Page 36
7,62-мм Самозарядный Карабин Симонова.....	Page 37
Ручной Противотанковый Гранатомёт РПГ-2.....	Page 38
7,62-мм Автомат Калашникова Модернизированный.....	Page 39
5,45-мм Автомат Калашникова Складной Укороченный.....	Page 40
7,62-мм Пулемёт Горюнова.....	Page 41-42
7,62-мм Maschinenpistole KM.....	Page 43
5,45-мм Maschinenpistole AKS-74N.....	Page 44
7,62 mm Simopal 26.....	Page 45
7,65mm Simopal wzor 61 Skorpion.....	Page 46
Pisca Mitraliera, calibre 7,62mm, Model 1964.....	Page 47
Pisca Automata, calibre 5,45mm, Model 1986.....	Page 48
Automata Modoshoti Deszant legyver 1965.....	Page 49
Automata, Modoshoti, Puskagranatos 1969.....	Page 50
7,62mm Pistolet Maszynowy PPS wzor 1943.....	Page 51
7,62mm Pistolet Maszynowy PPS wzor 1943/52.....	Page 52

Pistolet Maszynowy wzor. 1963 Ręczny Automat Komandosów.....	Page 53
7,62 mm Ręczny Karabin Maszynowy Diegliarowa.....	Page 54
Przekrój 7,62 mm Karabinek AKMS.....	Page 55
Karabinek-granatnik wzor 1960.....	Page 56
Aytomat 7,62 mm M56.....	Page 57
Застана M84 "Шкорпион".....	Page 58
ARM - הנדסה תבונה.....	Page 59-60
הנדסה תבונה.....	Page 61
הנדסה תבונה IWI X-95.....	Page 62
הנדסה תבונה.....	Page 63
הנדסה תבונה.....	Page 64
1956 年式 7.62 毫米半自动步枪.....	Page 65
1963 年式 7.62 毫米半自动步枪.....	Page 66
56 式半自动步枪.....	Page 67
58 式 自动步枪.....	Page 68
MIA 7,62mm Rifle by Norinco.....	Page 69
1956 年式通用机枪.....	Page 70
US Military Rifles & Carbines in the 19th Century, made in Italy.....	Page 71
Winchester Rifles & Carbines, The American Legend.....	Page 72
Bolt Action Rifles of the Great Powers in the 19th Century.....	Page 73
US Cavalry Carbines in 19th Century.....	Page 74
US Starr M1858 Double Action Percussion Revolver【3623】.....	Page 75
US Savage M1861 Navy Percussion Revolver【3585】.....	Page 76
US Remington New Model Army Percussion Revolver【4384】.....	Page 77
US Manhattan Navy Percussion Revolver, Series V【4301】.....	Page 78
US Manhattan Pocket Model Percussion Revolver, Series I【3094】.....	Page 79
US Colt M1849 Pocket Percussion Revolver, 6 inch Model【4917】.....	Page 80
The American & English Pepper-box Revolvers.....	Page 81-82
English Single Shot Flintlock Pistol by BARNETT【4945】.....	Page 83
English J. R. Cooper Ring Trigger Underhammer Pepperbox【4980】.....	Page 84
US Allen & Thurber Bar Hammer Pepperbox【4757】.....	Page 85
US Manhattan Bar Hammer Pepperbox【4300】.....	Page 86
The English Percussion Revolvers.....	Page 87-88
English Transitional Percussion Revolver【4298】.....	Page 89
English Adams M1851 Percussion Revolver, Dragon Model【4329】.....	Page 90
English Tranter Double Trigger Percussion Revolver【3723】.....	Page 91
English Bentley Type Percussion Revolver by Thomas S. Fletcher【4908】.....	Page 92
Belgian Lefauchaux-Francotte Pinfire Revolver【4944】.....	Page 93
French Lefauchaux M1854 Pinfire Revolver by Lefauchaux a Paris【4530】.....	Page 94
Belgian Single Shot Percussion Target Pistol【4641】.....	Page 95
US Burnside M1864 Breech Loading Percussion Carbine【4604】.....	Page 96
US Sharps M1865 Percussion Carbine【4438】.....	Page 97
US Winchester M1866 Carbine【3746】.....	Page 98
Japanese Matchlock Rifle【2703】.....	Page 99
British Snider Enfield MK II Breech Loading Rifle【4622】.....	Page 100
シカゴ Q & A.....	Page 101-102
銃の口直しのご案内、ご来店/お問い合わせをご利用のお客さまへ.....	Page 103-104
無動動火銃 / 銃劔刀劍類登録証付古式銃について.....	Page 105
Belgian Lefauchaux Pinfire Pocket Revolver【4910】.....	Page 106
The Chicago Gallery.....	Page 107-108

U. S. Carbine, Caliber .30, M1

1941年に整備用及び下士官用の軽量な自衛用火器として米軍制式となった自動小銃です。開発はウィンチェスター社で行われましたが、大戦中には他に8社が製造に加わりました。採用当初は威力不足を指摘される事もありましたが、軽量かつコンパクトで準銃よりも射程と威力が有り、射撃時の反動も小さかった為、広く使われる事となりました。1943年以降、着剣装置が追加された他、フリップ・サイトからアジャスタブル・サイトへの変更や、セーフティがプッシュ式から回転式となる等、細かな追加改良が行われました。また生産性の向上を目指し、一部にプレス加工部品を取り入れた製品も生産されました。戦後はM1ガーランドとともに我が国の自衛隊でも使用されました。

US M1 Carbine
(No.3847136) ¥162,000 (税込)
US M1 カービン



フロントバンドは着剣ラグが装備された後期型です。



リア・サイトは折り出して製品されたアジャスタブル・タイプの物が取り付けられています。



レシーバー後部にはオートオーディナンスのライセンスの下でIBMが製造した事を示すAOの刻印が見られます。

U. S. Rifle, Caliber .30, M1

1936年に米軍制式となった自動小銃で、開発者であるジョン・C・ガーランドの名前からガーランド ライフルと呼ばれています。1937年より生産が始まりましたが、本格的な量産体制に入ったのは1940年頃からです。1945年の大戦終了までに400万挺以上が製造されましたが、朝鮮戦争の勃発に伴って生産が再開され、更に200万挺が製造されました。本銃は特殊な装弾子を使用するため弾薬の途中給弾が難しい事など、過渡期の自動小銃ならではの言える個性的なメカニズムを備えています。第二次世界大戦中はスプリング・フィールド工廠とウィンチェスター社の2社で大量生産が行われました。戦後は各国に供与され、我が国の自衛隊でもM1小銃の名前で使用されました。

U. S. Rifle, Caliber .30, M1
(No.5173390) ¥324,000 (税込)
M1 ガーランド ライフル



バット・ストック内にはクリーニングギョット用のコンパートメントが設けられています。



ストックの裏面部分には直角の中にアルファベットのPが入った刻印が見られます。



機関部後部にはモデル名やリライアンスの他にInternational Harvester社のメーカー名が刻印されています。



トリガー・ガードを下げる事により、銃床から機関部を直の引き出す事が可能となります。

U. S. Carbine, Caliber .30, M2

United Defense M42 Sub Machinegun



US M2 Carbine
(No. S306041) ¥183,000 (税込)
US M2 カービン

M2カービンは第二次世界大戦時に活躍したM1カービンの改良型として採用されたモデルで、フル・オートマチックでの射撃能力が追加されているのが特徴です。薬室の左側面付近にはセミフル・オートマチック射撃切り替え用のセクター・レバーが追加されており、多量の弾薬消費に対処出来るよう、30連マガジンも使用できるようになりました。M2カービンは約60万挺が製造されて朝鮮戦争時に広く使用された他、ベトナム戦争初期にも特殊部隊や航空機搭乗員等により使用されました。また、M2カービンのさらなる発展型として、夜間戦闘用に赤外線照準式暗視装置及びフア・アップリッパを装備したM3カービンも開発され、実戦投入も試験的に行われました。



トリガー・ガード直前にはレバー式の安全装置が設けられて入っています。



トリガー・ガード直前にはレバー式の安全装置が設けられて入っています。



別売りの30連マガジンを装着する事が可能です。



薬室の左側面にはフル・オートマチック射撃用にセクター・レバーが追加されています。



本個体では薬室上部のモデル名の刻印がM1からM2に打ち直されています。



金属製のアップパー・ハンドガードが装備された個体 (No. 6515662) もございます。



UD M42 Sub Machinegun
(No. 11681) ¥972,000 (税込)
UD M42 自動小銃



(写真左)UD M42 マガジン・バウチ(限定) ¥56,160(税込)
(写真右)UD M42 マガジン(限定) Sold out



同時代の短機関銃には珍しいボルト・ストップ機構が組み込まれています。



本体左側面には大型のリア・サイト用エlevation・ノブが設けられています。



本体右側面のセクター・レバーはセーフティも兼ねています。



本体左側面にはユナイテッド・ディフェンス社のメーカー刻印が入っています。

写真に写っている他製品は別売りの商品がございます。写真の価格はすべて税別価格です。

Armalite Infantry Rifle Caliber 7,62 NATO AR-10 "Sudanese" Model Mfd. by Artillerie-Inrichtungen

Armalite Infantry Rifle Caliber 7,62 NATO AR-10 "Portuguese" Model Mfd. by Artillerie-Inrichtungen

Armalite AR10 Rifle
Cuban Model
(No.002184) ¥291,600 (税込)
アーマライト AR10 自動小銃
キューバン・モデル

米国の航空機メーカー・フェアチャイルド社の銃器製造部門であるアーマライト社で1950年代半ばに開発された自動小銃です。本銃の設計はユージン・ストーマーが行い、後にM16の原型にもなりました。航空機メーカーの強みを生かした新しい機構を盛り込んだ斬新な設計にもかかわらず、AR10のプロトタイプは米軍では強度不足などの理由で採用されませんでした。AR10は1957年からオランダのArtillerie-Inrichtungen (AI) 社でライセンス生産が行われました。本品はAI社製AR-10の中では初期型に相当するモデルで、樹脂製一体型のハンドガードが特徴です。本モデルは1958年に2,508丁がスウェーデンに軍用として輸出されたことからSudanese(スウェーデン)・モデルとも呼ばれています。



銃口部のフラッシュ・ハイダーは三又タイプとなっています。



本銃体のバット・ストック左側面には配属先の部隊を示すと思われる真鍮製のメダル印が取り付けられています。



レシーバー左側面にはモデル名及びAI社のロゴが刻印されています。



リア・サイトのエレベーション調節はダイヤル式となっています。



トリガー・ガードは前部のロックを解除する事により下方に開きます。



Armalite AR10 Rifle Traditional Model
(No.008321) ¥410,400 (税込)
アーマライト AR10 自動小銃
トラディショナル・モデル



フロント・サイト・ポストにはグレネード用照準器を装着する為の突起及びガス・レギュレーターのダイヤルが設けられています。



セレクター・レバーの「SAFE」、「SEMI」、「AUTO」の順番はキューバン・モデルとは異なっています。



ライフル・タイプに改造されたズルミ製マガジンは7.62mm×51 NATO弾を20発装填可能です。

AI社製AR10の中では後期型に相当するモデルで、1960年にポルトガル軍用として1,556丁が輸出されたことからPortuguese (ポルトガル)・モデルとも呼ばれています。本モデルではライフル・グレネードの発射機能が追加されており、ハンドガードの前面が金属製、後面が樹脂製に変更されているのが特徴です。フロント・サイト・ポストの前面には、ライフル・グレネード用サイト用サイトを装着する為の突起が設けられている他、コッキング・ハンドルには真下に押し下げて解除するロック機構が追加されています。また、フロント・サイト・ポストの根元にライフル・グレネード発射時に使用するガス・レギュレーターのノブが追加されています。他にもフラッシュ・ハイダーがバードケージ・タイプに変更となるなど細かな改良が見られます。



レシーバー左側面にはモデル名やAI社のロゴの他に、目撃表示の刻印が入っています。また、ボルト・リリースの形状が小判型に変更されています。



銃身はライフル・グレネードを装着できるようにキューバン・モデルから形状が変更されています。



スリング取り付け金具の位置はバット・ストック左側面に変更されています。

Barrett Firearms Manufacturing M82A1



Barrett M82A1 Sniper Rifle
(No.3098) ¥1,512,000 (税込)
バレット M82A1 狙撃銃

アメリカのバレット・ファイアーアームズ社が開発した大型のセミオートマチック狙撃銃で、自動方式は反動利用式で、ロータリー・ボルト式の閉鎖機構とショート・リコイル式の銃身を組み合わせています。外観は近代的なプレス製レシーバーや大型のマズル・ブレイキを組み合わせた独特の物になっています。初期型の簡型マズル・ブレイキは小口径で反動が大きい物でしたが、後に反動軽減効果の大きい簡型のマズル・ブレイキに改良されました。1989年にスウェーデン陸軍が危険物除去用として導入した際の実績からその有効性が認められ、各国で採用され始めました。現在アメリカ軍を始め、ベルギー軍やフランス軍など30ヶ国以上で使用されています。



銃口部分にはV字型の大型マズル・ブレイキが装備されています。



折り畳み式のフロント・サイトに加え、20mmマウント・レールも装備されています。



マガジン・ハウジングの左側面にはメーカー名及び取扱時の注意書きが見られます。



セレクトアー・グリップ周辺のデザインはM16に類似しています。

Browning Machine Gun, Caliber .50 HB, M2

ジョン・M・ブローニングが開発し、1933年に米軍制式となった空冷式の多目的大口径機関銃で、構造的には30口径M1919機関銃をスケール・アップした物です。当初は水冷式機関銃として開発されましたが、軽量化のためにウォーター・ジャケットを廃止し、内筒の空冷式銃身に置き換えたタイプがM2 HBと呼ばれています。本銃は信頼性が高く、長大な射程と高命中度、強力なストップ・パワーを持ち、第二次世界大戦時には米軍だけで約200万挺が製造されました。戦中、戦後を含めて71エーションも多く、地上用、車載用、航空機用など用途に応じて様々なモデルが製造されました。本銃は現在に至るまで世界各国で運用が続けられており、我が国陸の自衛隊でも採用されています。



レシーバー右側面には、モデル名の他に本銃を製造したKEISY HAYES社が刻印されています。右に1行打刻されています。



トリガー・ハウジングとスライド・グリップは黒色鍍金塗装の物を取り付けられています。



US Browning Caliber .50 M2 Heavy Barrel Machinegun
(No.1342873) ¥1,296,000 (税込)
.50口径 M2 ブローニング 重機関銃



ボルト・ワッシャー・リリース・ロックを切り替える事により、セミ・オートマチック射撃の切り替えを行います。



フィード・カバーは後部のワッシャーを解除する事により開閉が可能です。



HB (Heavy Barrel) の名称の基となった内筒の空冷式銃身に装備されています。



三脚には大戦中の1944年にGENERAL STEEL TUBE社で製造された事を示す銘板が取り付けられています。

写真の銃はすべて機関銃です。

Karabiner 98 kurz

Gew.98歩兵銃から幾つかのモデルを経て1935年に制式化されたホルト・アクション・ライフルで、第二次世界大戦時のドイツ軍主力小銃です。モーゼル方式のホルト・アクション・システムは信頼性が高く、また堅牢で安全性が高い、最も完成されたシステムであるとも言われます。Kar.98kは短い全長や側面に沿う様に取付けられるスリングなど、騎兵銃的な特徴を持つモデルです。本銃は第二次世界大戦の終結までに非常に大量に生産された為、数多くのバリエーションが存在しますが、ストックの材質(クルミの単材/合板)及びバット・プレートの形状(フラット型/カップ型)で大きく分類する事が可能です。



Kar.98k Rifle
(No.25012) ¥97,200(税込)
Kar.98k 小銃



銃室上には製造者を示すメーカー・コードが打刻されています。



戦前タイプ(前期型)のフラット型バット・プレート
(No.88932)



大戦中タイプ(後期型)のカップ型バット・プレート
(No.25012)

Heckler & Koch Gewehr 3 A3



Gew.3 Self-loading Rifle
(assembled by EN)
(No.0902766) ¥108,000(税込)
Gew.3A3 自動小銃(EN組立品)



スペインで開発されたセトメ自動小銃の開発型で、1959年に西ドイツ連邦軍の制式小銃として採用されました。ローラー・ディレイド・ブローバックシステム等、多くの特徴的な機構を備え、西側を代表するアサルト・ライフルの一つとされています。Gew.3自動小銃はHK社のマルチン・バーバース・ウェボン・システムの中核を成し、MP5 短機関銃、HK33自動小銃、HK21軽機関銃等の派生モデルの基本型となりました。Gew.3A2ではハンドガード前部がバレルに直接固定されていたが、Gew.3A3ではリコイルバネを介した方式に変更され、命中精度の向上が図られています。また、A3モデルからはポリゴナル・ライフリングも採用されました。



本品のセクター表記は「S(安全)」「F(射撃)」のアルファベット表記となっています。



リア・サイトは回転式のドラム・タイプで、100mまでの射撃に対応したオープン・ノッチの他、200～100mに対応する3種類のピー・サイトが設けられています。

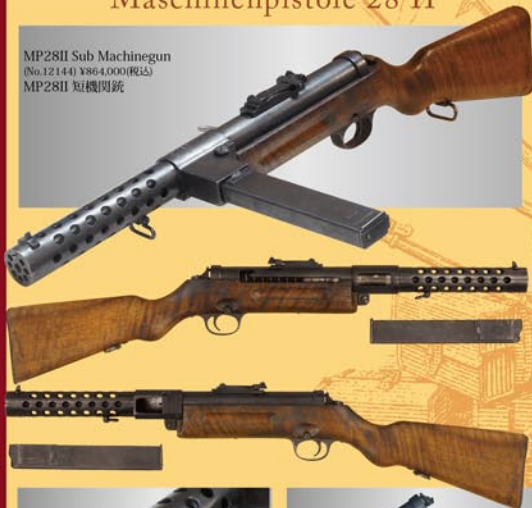


Gew.3 自動小銃用の別売アクセサリも各種在庫がございます。

写真の銃はすべて写実模型です。

Maschinenpistole 28 II

MP28II Sub Machinegun
(No.12144) ¥864,000(税込)
MP28II 短機関銃



銃口周辺のバレル・ジャケットには放熱孔が設けられています。



レシーバー後部のラッチを押す事によりティクダウンが可能です。



トリガー・ガード上方にはプッシュ・ボタン式のセレクターが装備されています。



リア・サイトはタンジエント式で100mから1,000mまでの調整が可能です。



マガジン・リリースはボタン式で、マガジン・ハウジング上面に設けられています。



レシーバー上面にはモデル名に加えてシュマイザーのパテント制印が見られます。

第一次世界大戦中に新造戦で活躍したMP18I短機関銃の発展型で、1920年代後半にヒューゴ・シュマイザーが開発し、ハーネル社で製造が行われました。MP18Iでは100mと200mの切り替え式であったリア・サイトが100mから1,000mまで対応したタンジエント・サイトに変更された他、セミ・フル・オートマチック射撃の切り替えが可能となりました。この為、トリガーの上方にプッシュ・ボタン式のセレクターが追加されているのが特徴です。また、MP18IではルガーP08と共用のスナイデル・マガジンを使用しましたが、MP28IIでは専用の箱型弾倉を使用します。第二次世界大戦前には主にドイツ警察で使用された他、大戦発後は武装親衛隊や治安維持部隊等でも使用されました。

Bergmann Maschinenpistole 35/I

Bergmann MP35/I Sub Machinegun
(No.188) ¥1,620,000(税込)
ベルグマン MP35/I 短機関銃



トリガーは引き方に応じてセミ・フル・オートマチック射撃の切り替えが可能です。



ホルト・アクション・ライフルと同様の特徴的なコッキング・ハンドルを備えています。



レシーバー左側面にはセーフティ・レバーが取付けられています。



バレル・ジャケットの放熱孔は独特の形状となっています。

写真の銃はすべて博物館蔵です。

www.regimentals.jp

A close-up photograph of a rifle, showing the receiver, barrel, and a portion of the stock. The rifle is dark-colored, possibly black or dark brown, and appears to be a bolt-action model. The barrel has some markings, including what looks like a manufacturer's logo or name. The receiver is visible, showing the bolt handle and the magazine well. The background is a plain, light-colored surface.



M.P. 38
ayf
41

A close-up photograph of a handgun, showing the grip, trigger, and slide. The handgun has a dark, textured grip and a metallic slide. The trigger is visible, and the slide is partially open, revealing the chamber. The background is a plain, light-colored surface.

Maschinenpistole 40I



A close-up photograph of a handgun, specifically focusing on the slide and barrel area. The slide is dark-colored with a textured finish. The barrel is visible, showing some wear and a small mark near the muzzle. The background is a plain, light-colored surface.

MP40I Sub Machinegun
(No.7657/7657) ¥453,600(税込)
MP40I 短機関銃

[illegible][illegible]

Maschinenpistole 41

Maschinengewehr Solothurn 1930



MP41 Sub Machinegun
(No.4352) ¥399,600(税込)
MP41 短機関銃



M30S Light Machinegun
(No.2647) ¥388,800(税込)
M30S 軽機関銃

ドイツ国内や占領国での治安維持用として開発された短機関銃です。ドイツ国防軍が新たに採用したMP40と、国防軍から親衛隊や警察に払い下げられて使用されていたMP28の間にマガジンの互換性がなかったため、生産及び補給の効率化を目的として、シュモグ・シュマイザーによって開発されました。MP40のハンドガードとグリップが木製の曲銃床に変更されている他、MP40の銃身下部のバレル・レストが省略され、セミ・フル・オートマチック射撃の切り替えスイッチがトリガー上部に追加されています。MP38やMP40用の弾倉が共用可能である他、MP41の刻印が入った弾倉も用意されました。またMP41では初めてシュマイザーの特許の一部が使用され、特許として本体に刻印されています。



木製銃床にはKar.98kと同様のスリング取り付けが設けられています。



通常分解用のロック・ボタンはレシーバー後端へと移動されています。



MP40に見られる銃身下部のバレル・レストは省略されています。



コッキング・ハンドルにはMP40と同様のジキワード・ロックが組み込まれています。



トリガー上部にセミ・フル・オートマチック射撃の切り替えボタンが追加されています。



レシーバー上部にはシュマイザーの特許刻印が見られます。

ドイツのラインメタル社が開発した、ショート・リコイル反動利用式でマガジン給弾の軽機関銃です。当時ドイツはヴェルサイユ条約により機関銃の製造を禁止されていたが、スイスのソロータン社及びオーストリアのステアー社で生産が行われました。直銃床のため、サイトが高い位置に固定されており、左にオフセットされています。また、マガジン挿入口にはカバーが取り付けられている他、右利き用として非対称な形状となっているバット・ストック、前方に大きな開口部を持つトリガー・ガードなど特徴が多い銃でもあります。本銃はオーストリアの他に、ハンガリーでも31M軽機関銃として採用されました。また、ドイツでは本銃を基にMG15やMG17等の航空機関銃が開発されました。



リアサイトベースの右側面には光学照準器取付用のレールが装備されています。



折り畳み式の二脚は伸縮式となっており、機ネジを緩める事で調整が可能です。



トリガーは上下二位置となっており、セミ・フル・オートマチック射撃を切り替える事が可能です。



マガジン挿入口にはダスト・カバーが装備されています。

写真の銃はすべて複製機です。

Carcano Mod. 91/38 Cal. 6,5

Carcano M1891/38 Short Rifle
(No. M15408) ¥86,400 (税込)
カルカノ M1891/38 短小銃



銃床先端には銃剣を折り込んだ際に銃先が収まる溝が設けられています。



シンプルでVノッチ型の固定式リア・サイトが装備されています。



リア・サイト前方には使用弾薬を示すCAL.6.5の刻印が見られます。



薬室上部にはサヴォイイ王家を示す王冠及びチルニ造兵廠の刻印が入っています。

カルカノM1891小銃を短縮化し、口径を7.35mmへと大口径化したM1938小銃を再び6.5mmに戻した小銃です。機関部はモーゼル方式、弾倉はエンブロッカ・クリップを使用するマンリッカー方式を改良した物を用いており、この機構をカルカノ式と呼びます。列強における小銃の大口径化及び歩兵銃と騎兵銃の共用化に後れをとったイタリアは、1938年にM1891小銃の後継として口径をより強力な7.35mm→52に变更し、全長を短縮して携帯しやすく改良したM1938小銃を開発しました。しかしながら、第二次大戦が勃発すると、イタリア軍では新型の7.35mm弾の供給が不足した為、本銃のように口径を再び6.5mmに戻したモデルや、当初より6.5mm弾を使用するモデルとして開発されたM1941小銃が製造されました。

Moschetto Automatico Beretta (MAB) Mod. 1938A

Beretta M1938A
Sub Machinegun
(No.2634) ¥172,800(税込)
ベレッタ M1938A
短機関銃

1938年にイタリア軍制となった短機関銃で、2本の引き金によってセミ/フル・オートマチック射撃の切り替えが出来るユニークな設計となっています。軽量、堅牢、精度の3つの要求に応えて設計された高品質の短機関銃でしたが、製造コストが高く大量生産には適していませんでした。その為、後にバレル・シヤケットの省略やハンドガードの短縮等の改良を加えたM38/42やM38/44といったタイプも開発されました。左側面に設けられた排莖口やマガジン挿入口のカバー、特徴的なマズル・ブレーキの他、10/20/30/40発用と装弾数のバリエーションが豊富なマガジンなど特徴の多い短機関銃です。第二次世界大戦中は、イタリア軍のみならず、ドイツ軍でもMP739(n)の名称で準制式採用されました。



リア・サイトは射程500mまで100m間隔での調整が可能となっています。



銃口部分には特徴的な形状のマズル・ブレーキが装備されています。



前方のトリガーを引くとセミ・オートマチック、後方を引くとフル・オートマチックでの射撃が可能となります。



バット・ストック側面にはスリング・ループがネジ留めされています。

写真の銃はすべて無断複製禁止です。

Carbine, Machine, Sten, 9mm., Mk. II

Sten Mk II Machine Carbine
(No.81837) ¥97,200(税込)
ステン Mk II 短機関銃



本品にはT字型バット・ストックが装備されています。



本品のマガジンのハウジング上面にはモデル名の模様が
見られます。



ステンMk IIでは銃口部のサブレッサーが廃
止されている他、バレル・ジャケットもMk IIに
比べて短縮されています。

Sten Mk II Machine Carbine
(No.80337518) ¥97,200(税込)
ステン Mk II 短機関銃



本品にはロープ・ストックが装備されています。



Carbine, Machine, Sten, 9mm., Mk. V

Mk Iから続くステン短機関銃シリーズの最終量産型です。ステン Mk II及びMk IIが徹底した製造コスト削減を
追求していたのに対し、Mk Vでは木製ピストル・グリップ及びバット・ストックを装備した他、着弾装置を搭載し、
SMLE小銃と同様のサイト・ガード付のフロント・グリップが装備されるなど操作性の向上が図られています。また、
フィンガー・チャンネルの設けられた木製のフォア・グリップを取り付ける事も可能となっています。ステンMk
Vは主として空挺部隊用の装備として利用されました。多くのステン短機関銃が第二次世界大戦の終結に伴い
退役したのに対して、このステンMk Vはその扱いやすさから1953年まで使用が続けられ、スエズ動乱や朝鮮戦
争でも使用されました。



Sten Mk V Machine Carbine
(No.48870) ¥104,400(税込)
ステン Mk V 短機関銃



本製のバット・ストック内にはクリーニング・キルトが収納可
能です。



フロント・サイトの形状がSMLE小銃と同様になり、銃身には着
弾クワも装備されています。



ステン短機関銃用のアクセサリも各種在庫がございます。



写真の銃はすべて実物複製です。

Short, Magazine Lee-Enfield Rifle No.1 Mk III

Short, Magazine Lee-Enfield Rifle No.4 Mk I*



ショート・マガジン・リー・エンフィールド(SMLE)小銃は1907年にイギリス軍制式となり第一次、第二次大戦を通じて使用されたボルト・アクション・ライフルです。ボルトのロッキング・ラグが同時期の他のボルト・アクション・ライフルと比較して後部に配置されていた為、ボルト・スロアークが短くなり、より短時間で連射することができました。イギリスでは第二次大戦中期以降、SMLE No.4へ段階的に更新されましたが、インドやオーストラリアでは50年代まで生産されていました。最終的にはLIAIが採用されるまで実に約60年間主力小銃として続けた英軍を代表する名銃です。SMLE No.1 Mk III*ではマガジン内の給弾をストップさせるマガジン・カット・オフが省略されました。

Short, Magazine Lee-Enfield Rifle
No.1 Mk III
¥129,600 (税込)
SMLE No.1 Mk III 小銃



リア・サイトは左側のボタンを押しながら調整し、右側のダイヤルで微調整を行います。



機関部の中程にはクリップ・サイドが設けられています。



銃口先端がストックと面一になっており、銃口下部には着弾ラグが組み込まれています。



Short, Magazine Lee-Enfield Rifle No.4 Mk I
No.4 Mk Iは、リア・サイトが機関部後部に移り、ストックより僅かに突出した銃身先端にスパイク・ハコネットを装着するようになった品です。No.4 Mk Iの生産性向上型であるNo.4 Mk I*は、リア・サイトをヒープ・サイドとして射程距離が500mまでに限定されているのが特徴です。大戦中は英国造兵廠の多くがドイツ軍の爆撃にさらされた為、SMLEやブレンガンを始め多くの英軍用銃がカナダ等で生産されました。また、No.4 Mk Iはアメリカのサバード社でも製造が行われ、レントリース法に基づきイギリスに供給が行われました。



機関部後部にフリップ式のヒープ・サイドが取り付けられています。



銃身はストックから突出しており、先端にスパイク・ハコネットを着弾します。



第二次世界大戦中にカナダのロング・ブランチ造兵廠で製造された品です。



兵士の体格の違いに合わせて銃床の長さが異なるタイプも数種製造されました。



トリガー前部のマガジン・リリース・レバーを押したみながらマガジンを外します。

L37A1 General Purpose Machine Gun



ガス・レギュレーターは10段階で調整が可能となっています。



レシーバー右側面には「FN DESIGN」の刻印が見られます。



二脚が折り畳んだ状態から不意に展開する事を防ぐため、スライド式のロックが設けられています。



レシーバー左側面にはモデル名及びシリアルNo.の刻印が入っています。



フュード・カバー及びフュード・トレイは開閉が可能となっています。



マガジン・ハンドルを直上に引き上げるとロックが解除されて角度が変更出来ます。

1957年にロイヤル・スモール・アームズ・ファクトリーがベルギーのFN MAGをイギリス軍向けに改修してライセンス生産したモデルです。この英国版FN MAGは総じてL7シリーズと呼ばれていますが、用途によってモデル名が異なります。本品は車載専用のL8A1をベースに開発されたL37A1と呼ばれる車載モデルですが、車両搭載用の自衛用として地上転用も考慮されており、ピストル・グリップを追加した他、電気式トリガーの代わりに通常型のトリガーを装備しています。また、車外用キットとしてL7A1汎用機関銃用の銃身や二脚及びバット・ストックが用意されており、これらを装着する事で通常のL7A1汎用機関銃と同様の取り回しが可能となっています。



L37A1 General Purpose Machine Gun
(No.UE68A1301) ¥1,296,000(税込)
GPMG L37A1 汎用機関銃

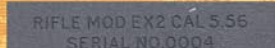
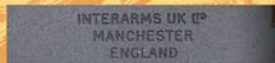


Interarms Cadet Rifle

Interarms Cadet Rifle
(No.0004) ¥340,000(税込)
インターアームズ キャデット・ライフル



トリガー・ガード内にはセーフティ・レバーが設けられており、「F(射撃)」及び「S(安全位置)」で表示されています。



本体にはインターアームズ社のメーカー名及び試作品である事を示すEX2の刻印が入っています。



レシーバーは後部のピンを引き抜く事によりテイクダウンが可能となっています。



手動式のコッキング・ハンドルは左右で付け替え可能な構造となっています。(無可動銃では付け替えは出来ません。)



ゴム製のバット・プレートが付いた伸縮式の本製ストックが装着されています。



英国のインターアームズ社が英国陸軍士官学校の鋭点射トレーニング・ライフルのトライアル用に試作した品で、外観はAR-15系自動小銃の影響が見られます。L1A1の後継となる英軍の制式小銃がAR-15系になる事を想定して開発されたとも言われていますが、実際には1985年にSA80(L85A1)自動小銃が採用された為、トレーニング・ライフルについてもL85自動小銃ベースのL98A1が採用されました。本体側面のコッキング・ハンドルは状態に応じて左右で付け替えが可能となっており、発射の度にコッキング・ハンドルを手動で操作して装填・排莖を行います。バット・ストックは5箇所のポジションで調整可能な伸縮式となっており、リア・サイトもダイヤルにより多段階調整が可能となっています。

写真はすべて実物撮影です。

Pistola Metralhadora FBP m/948



1948年にポルトガル陸軍の下士官用として採用された短機関銃です。FBPはファブリカ・デ・ブラコ・デ・プラタ造兵廠の略で、ポルトガル軍独自の命名法に則り、採用年の下3桁を示す「948」というモデル・ナンバーが付付けられています。米国のグリースガンと同様の伸縮式ワイヤー・ストックが装備されており、ドイツのMP40短機関銃のボルト及びリコイル・スプリングの構造が取り入れられている他、英国のステンガンと同一の弾倉を使用します。戦後数多く作られた9mm L11口径の短機関銃の中でも、プレス加工とアーク溶接を多用した特にコスト・パフォーマンスに優れた品です。ポルトガル軍以外では旧植民地のアンゴラやモザンビーク等でも使用されました。

ワイヤー・ストックのデザインはグリースガンと同様となっています。



リコイル・スプリングはMP40と同様、伸縮式のリコイル・ユニットに収納されています。



マガジン・ハウジング左側面にはモデル名及びシリアルNo.の刻印が入っています。



グリップ上部には伸縮式ストックのロック・ボタンが設けられています。



トリガー及びグリップのデザインはグリースガンに類似しています。



MP400と同様のフォワード・ロック・セーフティが装備されています。



ストックを収納した際の全長は約615mmとなっています。



FBP m/948 Sub Machinegun
(No.14589) ¥129,600(税込)
FBP m/948 短機関銃

Subfusil Star Z-70/B



Star Modelo Z-70/B Sub Machinegun
(No.ET61720) ¥129,600(税込)
スターモデル Z-70/B 短機関銃

スペインのスター社で1962年頃に開発されたZ-62短機関銃の改良型で、1971年に発表されました。Z-62短機関銃ではスペイン国内の軍・警察向けとして9mmラコ弾仕様で製造された他、輸出用として9mm×19弾仕様も製造されていましたが、Z-70/B短機関銃では9mm×19弾仕様のみとなりました。また、Z-62短機関銃ではトリガー一体にセミフル・オートマチック射撃の切り替え機能が装備されていましたが、Z-70/Bではグリップ上部に一般的なセレクトー・スイッチが装備された他、マガジン・キャッチもプッシュ・ボタン式からレバー式に変更されています。Z-70/B短機関銃は、1980年代半ばにスターZ-84短機関銃が登場した後も、スペイン軍の後方部隊や海軍等で使用が続けられました。



本体左側面には折り畳み式のコッキング・ハンドルが装備されています。



グリップ左側面には親指で操作可能なセレクトー・レバーが設けられています。



マガジン・ハウジング左側面にはメーカー・刻印及びモデル名が彫印されています。



銃身先端にはフラットが設けられており、バレル・ジャケット前面のガスと組み合わせて放熱効果を高めています。



本体の両側面には握持用のリブが設けられています。



折り畳みストックの取り付け基部にはロック・ボタンが設けられています。

写真の価格はすべて税別価格です。

Schmidt-Rubin Gewehrssystem

1889年に制式となったスイス独自のストレート・フル式ボルト・アクション・ライフルで、ボルト・ハンドを引くとボルト・カバー内のボルト部分のみが90度回転する独特の構造となっています。使用弾薬である7.5mm Swiss弾は世界初のフルメタル・ジャケット（鋼被甲）弾であり、高い貫通力を持っていました。

Schmidt-Rubin Infanteriegewehr
1889 Infantry Rifle
¥118,800（税込）
シュミット・ルビン IG89 歩兵銃

IG11では新型のGP11弾に対応する為、機関部の内部構造にも改良が加えられています。

Schmidt-Rubin Infanteriegewehr
1911 Infantry Rifle
¥118,800（税込）
シュミット・ルビン IG11 歩兵銃

IG89の改良型であるIG96のストックを改修してスカント・グリップを追加したIG96/11歩兵銃と外観は殆ど同じですが、IG11歩兵銃ではストックとスカント・グリップが継ぎ目のない一体型となっているのが特徴です。

Schmidt-Rubin Karabiner
1931 Rifle
（No.21002）¥118,800（税込）
シュミット・ルビン K31 小銃

IG11歩兵銃の改良型で、全長を騎兵銃（短小銃）サイズに短縮したモデルです。シュミット・ルビン小銃は、その複雑なストレート・フル方式が原因でボルトの強度に弱点が有った他、汚れや錆に弱いという弱点が有りました。特にボルトの強度不足に起因してはモデルチェンジの度に懸念とされましたが、K31小銃になってようやく解決しました。



本体右側面にはマガジン・カット・オフ機能を兼ねたマガジン・リリース・レバーが装備されています。



リア・サイトは特殊な扇形式のタンジェント・サイトとなっており、日本の三十五年式歩兵銃にも影響を与えました。



着弾式のマガジンはマガジン・カット・オフ機能が省略され、装弾数は6発となっています。



バット・ストック左側面にはスリング取り付け金具が設けられています。



フロント・サイトは銃口付近に設けられており、フロント・サイト・ガードが装備されています。

7,5 mm Maschinengewehr Modell 1911

1911年にスイス軍が制式化したマキシム型の水冷機関銃で、スイス独自の7.5mm×55 GP11弾を使用します。当初ドイツ・ベルリンのDWM社から167挺の調達が行われましたが、第一次世界大戦によってドイツからの供給が途絶えた為、1915年からはスイスのベルン造兵廠で製造が開始されました。三脚に搭載して歩兵が使用した他、車載機関銃や航空機関銃としても使用されました。また、専用の光学照準器及びボルト・マウントを装備した状態で空軍への配備も行われました。MG11は1934年から1935年にかけて布製アモ・ベルムから金属製ベルト・リンクへの変更が行われるなど各種改良を続けながら1946年まで生産が続けられ、合計10,269挺が生産されたと言われています。



本体左側面のリコイル・スプリング・カバーにはベルン造兵廠の顔印が入っています。



レシーバー後端にはスベード型グリップや押し込み式のトリガーが設けられています。



三脚にはレンジ・プレート（照尺）が取り付けられています。



リコイル・スプリングのテンションはスプリング・カバー前部のノブにより調整可能です。



レシーバー後端のラッチを押し込む事によりレシーバー・カバーを開く事が可能です。



レシーバー・カバーのラッチやトリガー等の部品にも、シリアルNoが入っています。



Swiss Maxm MG11 Machinegun
（No.8940）¥648,000（税込）
スイス軍 マキシム MG11 機関銃

写真の銃はすべて写実可能な銃です。

7,62-мм винтовка образца 1891/30 года

7,62-мм карабин образца 1944 года



Mosin Nagant M1891/30 Infantry Rifle
(No.3206) ¥75,600(税込)
モシンナガン M1891/30 歩兵銃

ロシア軍大佐のセルゲイ・イワノビッチ・モシンとベルギーのナガン兄弟が設計し1891年にロシア帝国に制式採用されたモシンナガンM1891小銃の改良型で、第二次世界大戦のソ連軍主力小銃です。M1891小銃に比べて銃身が若干短くなった他、リア・サイトとフロント・サイトが強化され、フロント・サイトには筒状のカバーが追加されました。また、照尺の表示がロシア帝国独自の単位であるアルシンからメートル法に改められました。M1891/30小銃にはM1891小銃から改修された個体及び、当初よりM1891/30として製造された個体の二種類が存在します。当初よりM1891/30として製造された個体では、レシーバー前方の形状がM1891の六角形から円筒状に変更されています。



Mosin Nagant
M1944 Carbine
(No.2506) ¥97,200(税込)
モシンナガン
M1944 騎兵銃

モシンナガン クリーニング・キット (販売)
¥5,400(税込)



モシンナガンM1944騎兵銃は、1938年にソ連軍の制式となったM1891/30歩兵銃の騎兵銃モデルであるM1938騎兵銃に折り畳み式のスパイク・バヨネットを追加したモデルです。スパイク・バヨネットは銃の右側面に折り畳まれ、銃床右側面には折り畳んだバヨネットが収まる溝が設けられています。M1944騎兵銃は、ソ連では1943年から1948年にかけて1にイジェフスク造兵廠において製造が行われましたが、1944年のみツァー造兵廠でも製造されました。また大戦中には、銃頭を取り付ける事が出来ないM1938騎兵銃の機関部をM1944用の銃床に垂せ換えた個体も作られました。モシンナガンM1944騎兵銃はソ連本国のみならず、多くの東側諸国に供与されました。

写真に写っている付属品は別売の場合がございます。写真の銃はすべて実物撮影です。

7,62-мм пистолет-пулемёт образца 1941 года системы Шпагина

PPSh41 Sub Machinegun
(No.362) 短機関銃
PPSh41 短機関銃



1939年のフィンランドとの冬戦争において、ゲリラ戦と短機関銃の有効性を思い知らされたソ連が1941年に新たに採用した短機関銃です。第二次世界大戦時のソ連軍を代表する短機関銃で、ソ連では1945年まで生産されましたが、戦後も東側各国でライセンス生産や改良型が作られました。PPSh41はその生産期間を通じて、サイトの簡略化や内部部品の仕様変更等の細かな改良が続けられました。本銃はその特徴的なドラム・マガジンから、通称「バラライカ」または「マンドリン」等と呼ばれた他、開発者の名前をとって「シュパーゴン」とも呼ばれました。PPSh41には、その後開発された32連バナナ・マガジンも装着が可能でした。



レシーバー後部のロックボタンを押し込む事により、ティ
ラダウが可能で、

マガジンリリースレバーは折り畳み式となっています。



第二次世界大戦中にギャツキエ・モロツニ（モロツ）造兵
で製造された品です。



リア・サイトはサイト・ガードの付いたフリップ式となっ
ています。

7,62-мм пистолет-пулемёт образца 1943 года системы Судаева

PPS 43 Sub Machinegun
(No.171) 短機関銃
PPS 43 短機関銃



1942年にドイツ軍包囲下にあったレニングラード市において生産が開始されたPPS 42短機関銃の改良型で
す。PPSh 41を基に軽量化及び生産工程の簡略化を図った設計がなされており、旧ソ連の短機関銃としては初
めて折り畳み式ストックを採用しました。本体には大形プレス製法が導入されていたが、大形のプレス機
を持たない町工場でも生産が可能でした。PPS 43はバナナ・マガジン専用となり、PPSh 41用のドラム・マガ
ジンを共用する事は出来ませんでした。PPS 43は戦後も其産国の幾つかの国でライセンス生産もしくはコピー
されて使用が続けられました。



銃口部分にはU字型のマズルブレーキが装着されています。



トリガー・ガードの右側面に設けられた安全装置は人差し指で
操作が可能です。



マガジンリリースレバーの周囲にはプレス製のガードが設け
られています。



レシーバー後部のロックボタンを押し込む事により、スト
ックの展開が可能です。



写真の銃はすべて無用銃実銃です。

7,62-мм танковый пулемёт системы Дегтярёва обр.1929 г.



DT Tank Machinegun
(No.3996) ¥194,400(税込)
DT 車載機関銃

DP軽機関銃を基に開発され、1929年にソ連軍制式となった車載用機関銃です。基本的な構造はDPと同一ですが、銃身がヘビー・バレル化され、独立したピストル・グリップと伸縮式の金属製ストックを装備しています。また車内での取り回しを考慮し、直径が小型化された三層構造のパン・マガジンを使用します。車内に使用済み薬莖が散乱する事を防ぐ為、布製の薬莖受けを排莖口に取り付ける事も可能でした。DTはT-34戦車を始めとしたソ連軍の広範な車両に搭載され、それらの車両と共に戦後も使用されました。車載用として開発されましたが、車外でも使用する事を想定して取り外しが可能な二脚も装備されています。



本体下面には布製の薬莖受けを取り付ける為の溝が設けられています。



伸縮式ストックは多段階調節が可能で、11番目部分にはジョルダースト及び布製のクッションが装備されています。



DTMとは異なり、本体後部にリコイル・スプリングを収める金属製チューブは設けられていません。



仰り込み可能なレール・サイトが装備されています。本体はリア・サイト基盤のマガジン・キャッチを手前に引く事によりマガジンの取り外しが可能です。

7,62-мм Дегтярёва танковый модернизированный

DT車載機関銃の改良型で、1944年にソ連軍制式となりました。DTでは銃身下のガス・ピストンの周囲にリコイル・スプリングが設置されていましたが、高温の発射ガスによってリコイル・スプリングが熱膨張を起こし、作動不良が発生する恐れがありました。この問題を解決する為、DTMではリコイル・スプリングがレシーバー後端へと移設されています。リコイル・スプリングの移設に伴い、スプリングを収納する金属製のチューブがレシーバー後部から突出しているのが特徴です。DTM車載機関銃はT-44中戦車やIS-3重戦車等、第二次世界大戦末期から戦後直後に生産されたソ連軍車両に搭載されました。



本体後部には金属製のリコイル・スプリングを収めるチューブが追加されています。



車載用スコップを装着する為のリング・マウントが装備されています。三角形のマガジン・キャッチを互いに倒す事によりマガジンの取り外しが可能です。



DT/DTM用のパン・マガジンはDT用よりも直径が小さくなっていますが、内部がスライフル構造となっており60発装填する事が可能です。



本体上面のマガジン装着部分にはスライド式のカバーが装備されています。

DTM Tank Machinegun
(No.438) ¥172,800(税込)
DTM 車載機関銃

本品の二脚・フロント・サイトのセットは復刻品です。



写真の銃はすべて複製品です。

7,62-мм Самозарядный Карабин Симонова



フロント・サイト・ガードは上部まで覆われたデザインとなっており、



トリガー後部にはトリガーをロックする安全装置が設けられています。



ホルト・キャリアの先端にはクリップ装填用のガイドが設けられています。



弾倉は固定式ですが、リリース・レバーを引く事により残弾の取り出しが可能です。

ソ連最初の短小弾である7,62mm×39 M43弾を使用する自動小銃として、1945年より配備が開始されました。基本構造はAKS対戦車ライフルのチルティング・ホルト方式をスケール・ダウンした物で、信頼性の高い固定式の10発弾倉を備え、銃剣が標準装備されています。旧ソ連でAK-47自動小銃が制式となった後は、歩兵以外の兵科の装備品として使われました。また他の共産圏にも広く輸出され、多くの国でライセンス生産が行われました。セミ・オートマチック射撃のみの為、火力ではAKに劣るものの、堅牢な構造と比較的良好な命中精度が高く評価されました。現在でもアフガニスタンは民間用ライフルとして愛用者の多い銃となっています。



Simonov Carbine
Y108,000(税込)
SKS (シモノフ・カービン)

SKS クリーニング・キット(別売) Y3,240(税込)

SKS クリーニング・ロッド(別売) Y3,240(税込)

SKS 銃剣 合法複製品、亜鉛合金製(別売) Y21,600(税込)

SKS マガジン・ハウチ(別売) Y16,200(税込)

Ручной Противотанковый Гранатомёт РПГ-2

第2次世界大戦でドイツ軍が使用したパンツァーファウストを基に、戦後旧ソ連が開発した対戦車兵器です。ロケット・モーターの無いシンプルな無反動砲の為、PG-2 82mm成形炸薬弾を使用した場合の最大射程は200mで有効射程も100mと短く、1960年代に入ると後継のRPG-7ロケット・ランチャーにその座を譲ることになります。しかしながら、RPG-2は装甲目標以外にも有効な兵器であった為、ベトナム戦争では共産勢力側から抑る目標に向けて多用し、効果も挙げられて注目されました。旧ソ連や旧東側諸国をはじめ、多数が生産・輸出され、後継のRPG-2と並び、近年の紛争においても使用が確認されています。



RPG-2 Anti-Tank Grenade launcher
C/o D1583 Y194,400(税込)
RPG-2 ロケット・ランチャー



フロント・サイト及びリア・サイトは折り畳み式となっています。



スリングの付け金具は本体に溶接により固定されています。



グリップ上部のセーフティボタンを押込むとトリガーがロックされます。



リア・サイトは50m・100m・150mの3段階の射距離で照準を合わせる事が可能です。



本体には本製のビード・シールドが取り付けられています。



グリップ後部にはハンマーが設けられており、発射前に引き起こして射撃準備を行います。



写真の銃はすべて無動機複製です。

7,62-мм Автомат Калашникова Модернизированный

ミハエル・カラシニコフが設計したAK-47自動小銃の改良型で、1959年に旧ソ連軍により制式採用されました。基本的な構造はAK-47と同一ですが、大きな特徴としてレシーバーが折り出しによる製造からプレス製へと変更になり、生産性の向上と軽量化を実現しました。またフル・オートマチック射撃時の制御を容易にする為、ストックが直銃床型となった他、銃口部には斜めに切り落とされた形状のマズル・ブレーキが装備されました。また、トリガー機構にはホルトが完全に閉鎖するまでハンマー・リリースのタイミングを遅延させるための部品が組み込まれているのも特徴です。AKM自動小銃は旧東側諸国を始めとする諸外国でもライセンス生産が行われました。

AKM Assault Rifle
(No.592) ¥129,600(税込)
AKM 自動小銃



レシーバー左側面には製造年及び造兵廠の刻印が見られます。



銃口部分には竹筒状のマズル・サブプレッサーが装備されています。

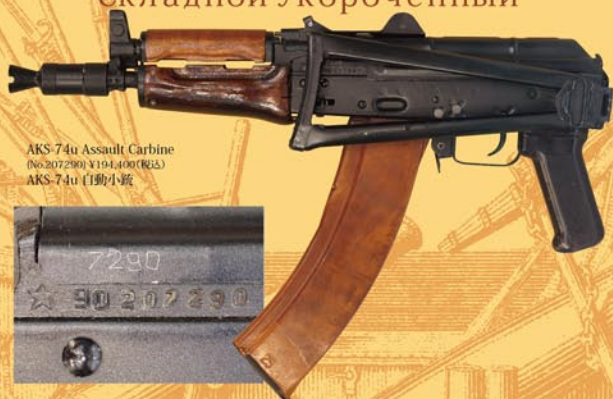


セレクター表示はキリル文字表記となっています。



リア・サイトの最大射程表示は1,000mまでとなっています。

5,45-мм Автомат Калашникова Складной Укороченный



AKS-74u Assault Carbine
(No.207290) ¥194,400(税込)
AKS-74u 自動小銃



空挺部隊や特殊部隊向けに、AKS-74自動小銃の銃身をさらに切り詰めてコンパクトにしたモデルで、米国のXM-177に開発されたソ連によって1970年代に開発されました。マズル・フラッシュの抑制を目的としたマズル・サブプレッサーを備えている他、サブプレッサーには短い銃身でガス・システムを確実に作動させる為のガス拡散室が設けられています。AKS-74uに比べてフロント・サイト・ベースが低くなっており、200mと400mの2段切り替え式のリア・サイトがレシーバー・カバー上に取り付けられています。AKS-74uでは、レシーバー・カバーがヒンジを介してレシーバー前面に取り付けられているのも特徴です。



AKS-74u自動小銃は当初イジェフスク造兵廠で製造されていましたが、後にツラ造兵廠での製造にシフトしたと言われています。本品にもツラ造兵廠を示す星の刻印が入っています。



7,62- mm Пулемёт Горюнова

Chinese SGM Heavy Machinegun
(No.80171) ¥540,000(税込)
中国 五七式 重機関銃

旧ソ連で第二次世界大戦中に制式となったSG-43重機関銃を改良、軽量化したモデルがSGM重機関銃です。銃身の軽量化と冷却性能向上を目的としてバレル・フルートが追加され、給弾孔や排気口に防塵用のカバーが装備されました。また、コッキング・ハンドルの位置がレシーバー右側面へと変更されています。本品はこのSGMを中国でライセンス生産したモデルで、SG-43に相当するモデルは五三式重機関銃と呼ばれています。五七式重機関銃は刻印以外オリジナルのソ連製SGMと同様の作りになっています。



SGMでは銃身のロック機構が改良されています。(無動大銃では銃身の取り外しは出来ません)



フィード・カバー上面には造兵廠のマークに加えてモデル名及びシリアルNoが刻印されています。



銃架は運用時には折り込む事が可能となっています。



銃身表面にはバレル・フルートが設けられています。

マキシムM1910重機関銃の後継として第二次世界大戦中に旧ソ連で開発された重機関銃で、通常は防弾板と車輪が装備されたM1943銃架に搭載して使用します。本品はポーランドによるライセンス生産品で、ポーランドにおける制式名は「7.62mm CKM wz.43」です。刻印以外の作りはオリジナルのロシア製と同様です。SG-43はポーランドで1952年から1956年にかけて製造が行われ、一重丸の中に数字の6が入ったポーランドの造兵廠刻印が打刻された個体も多く見られます。

Polish SG-43 Heavy Machinegun
(No.EB0087) ¥594,000(税込)
ポーランド SG-43 重機関銃

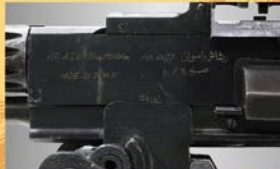
本体上部には折り畳み式の対空スナイプ・サイトが装備されています。



本品のレシーバー左側面にはナイトビジョン用と思われる光学サイト用マウントが増設されています。



薬室上部やセクター等にはアラビア語の刻印が入っています。



レシーバー左側面には英語とアラビア語の2種類の刻印が入っています。

Egyptian SGM
Heavy Machinegun
(No.2751) ¥540,000(税込)
エジプト SGM 重機関銃

エジプトでライセンス生産されたSGM重機関銃で、本体には「ASWAN. Made in ARE」の刻印が見られる事から、エジプトのアスワン造兵廠で製造された事が判ります。セクター表記など製造国名以外の刻印はアラビア語表記となっています。本体左側面には光学照準器用マウントが装備されており、暗視装置を取り付ける事が可能となっています。一説によると、エジプトにおけるSGM重機関銃の生産立ち上げにはポーランド人技術者も参加したと言われています。



下側のスピード・トリップはコッキング・ハンドルとして機能します。



フィード・カバー上面には造兵廠刻印やモデル名、製造年の他、シリアルNoが打刻されています。



フィード・カバーはロックを解除すると内蔵されたスプリングの力で上方へ跳きます。エジェクション・ポートは本体左側面に設けられています。

7,62-mm-Maschinenpistole KM

East German MPi-KM
(AKM) Assault Rifle
(No.5987) ¥86,400(税込)
東ドイツ MPi-KM (AKM)
自動小銃



1966年にドイツ民主共和国 (東ドイツ)は、従来のAK-47自動小銃のライセンス生産品である割り出しレシーバーのMPi-K自動小銃に代わり、より生産性の高いプレス製レシーバーのMPi-KM自動小銃の生産を開始しました。MPi-KMではグリップ及びアップバーハンドガードが樹脂製となり、ロア・ハンドガードのみ耐熱性の問題から当初ブナ材によって製造されていましたが、1980年には完全に樹脂製となりました。バット・ストックについても量産型では基本的に樹脂製で、表面には特徴的な凹凸がモールドされています。銃口部には当初MPi-Kと同様のマズル・リングが装着されていましたが、1971年には竹植型のマズル・ブレーキが導入されました。MPi-KMは後継であるMPi-AK-74Nの導入後も生産が続けられ、最終的には東ドイツが消滅する1990年まで生産が行われました。



バット・ストックの表面には特徴的な凹凸加工が施されています。



樹脂製のハンドガードは上下で素材が異なっています。



リア・サイトの最大射程表示は800mまでとなっています。

5,45-mm-Maschinenpistole
AKS-74N

レシーバー左側面には照準装置等を装着する為のレールが装備されています。



レシーバー先端には折り畳みストックのロック・レバーが設けられています。



リア・サイトの最大射程表示は1,000mまでとなっています。

East German Medals

警察優秀勤務章 (左)
¥4,000 (税込)

労働者民兵
勤続優秀章 15年 (右)
¥2,000 (税込)



East German MPi-AKS-74N
Assault Rifle
(No.89331508) ¥162,000(税込)
東ドイツ MPi-AKS-74N
(AKS-74)自動小銃

東ドイツで1985年から生産が開始された、小口径の5.45mm×39弾を使用する自動小銃で、MPi-KM自動小銃と同様の樹脂製ハンドガードやグリップを装備しています。本品は折り畳んだ状態でもセクターの操作が可能な、東ドイツ独自のサイド・フォールディング・ストックを装備するMPi-AKS-74Nと呼ばれるモデルです。モデル名末尾の「N」は、照準装置やスコープを装着する為のマウント・ベースがレシーバー左側面に取り付けられている事を示しています。MPi-KMでは金属製であったマガジンが、MPi-AK-74Nでは樹脂製となった他、リア・サイトの最大射程表示もMPi-KMの800mからMPi-AK-74Nでは1,000mに変更されています。MPi-AK-74N自動小銃はMPi-KMと同様、東ドイツが消滅する1990年まで製造が続けられました。

写真の銃はすべて写像機で撮影です。

7,62 mm Samopal 26

チェコスロバキアで開発されたSa Vz23シリーズの最終型で、7.62mm×25弾を使用する短機関銃です。Vz23ではテレスコーピング・ホルトと呼ばれる、銃身を包み込むようにホルトを配置された構造により、全長の短縮化が可能となりました。Vz23シリーズは、9mm弾仕様の固定ストックのモデルがVz23、金属折り畳みストックのモデルがVz25と呼ばれ、7.62mm弾仕様の固定ストックのモデルはVz24、折り畳みストックのモデルはVz26と呼ばれます。7.62mm弾仕様のモデルはマガジンがグリップごと若干前に傾いて装着されているのが特徴です。折り畳んでフォア・グリップとして使用可能なストックや、引く量に応じてセミ/フル・オートマチック射撃の切り替えが可能となり射撃など特徴の多い短機関銃です。



Vz26 Sub Machinegun
(No.7208) ¥59,400(税込)
Vz26 短機関銃



リア・サイトは右側に回して4段階で回転させて調整する事が可能です。



ハンドガード付前面にはマガジン・ローダーとして使用可能なレールが設けられています。



マガジン・キャッチはマガジン・ハウジングの下部に設けられています。



ストックは折り込んだ状態でバット・プレート部をフォア・グリップとして利用可能です。

7,65mm Samopal vzor 61 Škorpion



Vz61 Sub Machinegun
(No.7208) ¥75,600(税込)
Vz61 スコーピオン短機関銃

チェコスロバキアで1950年代後半に開発され、1961年に制式となった極めてコンパクトな短機関銃です。小型でありながら短時間に多数の弾薬を発射し弾幕を張る事を目的として設計されており、当初は特殊部隊や公安部隊用として開発されましたが、戦車兵の自衛用等としても使用されました。その名の通り、サソリの尻尾のように金属製ストックをレシーバー上部に折り畳む事が出来るのが特徴です。また、ビストル・グリップ内には発射速度を調整するためのレート・リデュース・サーが内蔵されています。Vz61は各種のバリエーションが生産された他、世界各国に輸出され、ユーゴスラビアではライセンス生産も行われました。



コッキング・ハンドルは本体前面に設けられています。



本品の本体下面には製造年の他、CZのウェルス・キプロト工場を示す「shej」の刻印が入っています。



リア・サイトは75mm及び150mmに対応したリフアップ式となっています。



ストック基部のロックを内側に押し込む事により、展開状態のフォールディング・ストックを折り畳む事が可能です。

(写真中央) Vz61 スコーピオン ホルスター(別売) ¥4,320(税込)

(写真左) Vz61 スコーピオン 20連 マガジン・バウチング・セット(別売) ¥12,960(税込)



写真の銃はすべて無関係な銃です。

Пушă-Mитралиерă, калибрul 7,62mm, Model 1964

旧ソ連でAKM自動小銃をベースに開発された分隊支援火器であるRPK軽機関銃のルーマニア製ライセンス生産品です。連続射撃に対応する為レシーバーが強化されており、長銃身を装備する他、独特な形状のバット・ストック及び二脚が装備されています。同時に開発された40連バナ・マガジン及び75連ドラム・マガジンが使用可能となっており、より長い連続射撃が可能となりました。また、従来のAK/AKM用30連バナ・マガジンも装着可能となっています。基本的にはロシア製と同一仕様ですが、弾倉が金属製となっており、ルーマニア独自の伸縮可能な二脚を装備する個体も存在します。RPKはAK-47やAKM自動小銃と同一の弾薬を使用する為、現在も世界各地で使用されています。



バット・ストックは伏せ撃ち時に左手を添えられるよう、独特の形状となっています。



セレクター表示は「FF (準射)」及び「FA (連射)」となっています。



レシーバー左側面にはルーマニアの造兵廠刻印が入っています。



レシーバー側面には強化リブが設けられています。



リア・サイトはダイヤルにより左右の調整が可能となっています。



本個体のようにルーマニア独自の伸縮可能な二脚が付属した個体も見られます。



Romanian RPK Light Machinegun
(No.V01900811621000(R2))
ルーマニア RPK 軽機関銃

Пушă Автоматă, калибрul 5,45 mm, Model 1986



Romanian AKS-74 Assault Rifle
(No.EE302791 X216.000 (R2))
ルーマニア AKS-74 自動小銃



グリップは茶色の樹脂製となっています。



レシーバー左側面にはシリアルNo.及び製造年の刻印が入っています。



ガス・ブロック及びフラッシュハイダーはソ連製AK-74等とは形状が異なります。



セレクター表示は「FF (連射)」、「F1 (準射)」、「F3 (3点バースト)」の3種類となっています。



本体下部には特徴的なパーティカル・グリップが装備されています。

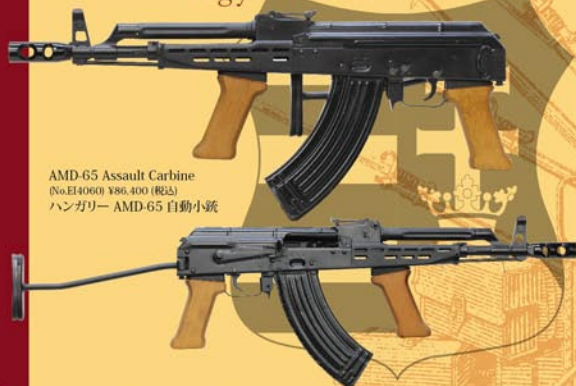


折り畳みストックの基部にはロック・ボタンが設けられています。

ルーマニアで生産されたAKS-74自動小銃で、特徴的なパーティカル・グリップの他、東ドイツ製に近い形状の側面折り畳み式ストックが装備されており、独特の外観を形成しています。またボルト・ハンドルが一般的なAK-74とは異なり、やや上方を向いているのも特徴の一つです。銃1部のマズル・サブレッサーは一般的なAK-74用に比べて外径が僅かに小さく全長が若干長いタイプ物が装着されている他、ガス・ブロックもAKM等に近い形状となっています。マガジンは他国製のAK-74で一般的なプラスチック製ではなく、金属製となっています。AK系自動小銃としては珍しく3点バースト射撃機能も搭載しており、外見だけでなく内部機構にもルーマニア独自の改良が見られます。

写真の銃はすべて博物館蔵です。

Automata Módosított Deszant fegyver 1965



AMD-65 Assault Carbine
(No.EI4060) ¥86,400 (税込)
ハンガリー AMD-65 自動小銃

ハンガリーのFÉG社でライセンス生産されたAKM自動小銃であるAMD-63の発展型です。車両搭乗員や空挺用として、銃身を短縮化する事によって取り回しを改善した他、折り畳んだ状態でも射撃操作が可能なパイプ状の折り畳みストックを採用しています。また、プレス製のハンドガードや、フォア・グリップが追加されている事など、外見上の特徴が多い銃です。1965年の春に試作品が完成しましたが、本格的な量産は1967年に開始されました。しかしながら製造コストの問題や、暴発するフォア・グリップの損耗から、1970年代後半にはより低コストで従来のAKMに近いデザインのAK-63へ置き換えられました。AMD-65はその他の東欧のカラシニコフ同様、諸外国へも相当数が輸出されました。



折り畳みストックの目当て部分にはゴム製のパッドが取り付けられています。



銃口部分には独特な形状のマズル・サプレッサーが装備されています。



ハンドガード下部のフォア・グリップはピストル・グリップと異形状となっています。



セクター表示は「1」(準射)及び「∞」(遠射)となっています。



折り畳みストックのロック・ギヤはレシーバー後端下部に設けられています。



リアサイトの最大射程表示は800mで、最短射程距離はAで表示されています。

Automata, Módosított, Puskagránátos 1969

ハンガリー軍特殊部隊からの要望に応じて、AMD65自動小銃にグレネード・ランチャーの発射機能を追加したモデルです。発射時のリコイルを軽減する為、フォールディング・ストックにショック・アブソーバーが組み込まれている他、ハンドガード内部にはスプリングが内蔵されており、前後に可動する構造となっています。また、レシーバー側面にはグレネード用照準器を装着するレールが装備されている他、ガス・ブロック部分にガス・カットオフ機構が装備されています。さらにグレネード発射の衝撃でレシーバー・カバーが外れる事を防止する為のロック機構も追加されています。特殊部隊向けに製造されたモデルであるため現存数は非常に少なく、正廠のAK/VIエディションの中でも最も特殊な品の一つと言えます。



銃口部分にはグレネード・ランチャー用のアダプターが装備されています。



レシーバー側面にはグレネード・ランチャー用の光学サイトが装着されています。



ガス・ブロックにはガス・カットオフ機構が組み込まれています。



グレネード・ランチャー用光学サイトのレティクル表示。



フォールディング・ストックにはショック・アブソーバーが組み込まれています。



樹皮製のハンドガードには素材の異なるパリエーションが存在します。



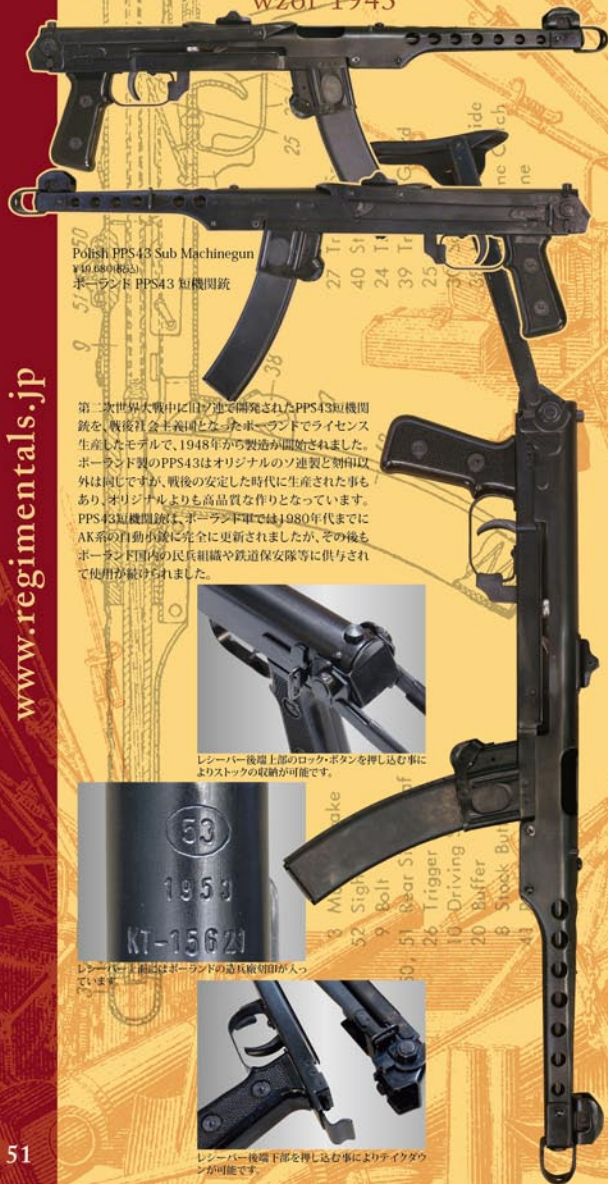
Hungarian AMP69 Assault Rifle
w/ Grenade Launcher
(No.KP4837) ¥194,400 (税込)
ハンガリー AMP69 自動小銃
(グレイ・パール・ハンドガード)



Hungarian AMP69 Assault Rifle
w/ Grenade Launcher
(No.KP0805) ¥194,400 (税込)
ハンガリー AMP69 自動小銃
(グレイ・パール・ハンドガード)

写真の銃はすべて専用機銃です。

7.62mm Pistolet Maszynowy PPS (Pistolet Pulemiot Sudajewa) wzór 1943



Polish PPS43 Sub Machinegun
¥16,600(税込)
ポーランド PPS43 短機関銃

第二次世界大戦中にドイツで開発されたPPS43短機関銃を、戦後社会主義国となったポーランドでライセンス生産したモデルで、1948年から製造が開始されました。ポーランド製のPPS43はオリジナルのソ連製と割印以外は同じですが、戦後の安定した時代に生産された事もあり、オリジナルよりも高品質な作りとなっています。PPS43短機関銃は、ポーランド軍では1980年代までにAK系の自動小銃に完全に更新されましたが、その後もポーランド国内の民兵組織や鉄道保安隊等に供与されて使用が続けられました。



レシーバー後端上部のロック・ボタンを押し込む事によりストックの収納が可能です。



レシーバー上面にはポーランドの造兵廠刻印が入っています。



レシーバー後端下部を押し込む事によりティクダウンが可能で、

7.62mm Pistolet Maszynowy PPS wzór 1943/52



ポーランドがライセンス生産したPPS43短機関銃の改良版です。PPS43短機関銃の折りたたみ式ストックを廃し、PPSh41短機関銃の木製銃床を切り詰めたような固定式の銃床に置き換えることで命中精度の向上を図りましたが、意図とは裏腹に、軽量、コンパクトというPPS43短機関銃の利点を捨てる程のデメリットは得られなかったようです。レシーバー後端がバット・ストックによって重くなった為、分解用のラッチがグリップ後部へと移設されており、従来型と比較して通常分解が容易になりました。スリング取り付け金具はPPSh41同様、バット・ストック左側面に埋め込まれたオーグドックスな方式となっており、ストック内にはクリーニング・キットの収納スペースが設けられています。

Polish PPS43/52 Sub Machinegun
¥18,600(税込)
ポーランド PPS43/52 短機関銃



後部のスリング取り付け金具は木製ストックの左側面に移設されています。



レシーバー上面にはポーランドの造兵廠刻印が見られます。



グリップ後部にはティクダウン用のラッチ・レバーが設けられています。



写真の銃はすべて無用機関銃です。

Pistolet Maszynowy wzór. 1963 Ręczny Automat Komandosów

7,62 mm Ręczny Karabin Maszynowy Diegtiariowa



Wz.63 Sub Machinegun
(No.BM4(988)Y203.200 (税込))
Wz.63 短機関銃

ポーランドのラドム造兵廠にて開発・生産された短機関銃で、PM-63 RAKとも呼ばれます。短機関銃で一般的なボルト・システムではなく露出したスライドを備え、オープン・ボルト位置から射撃を行う独特の構造となっています。非常にコンパクトな全長でありながら、折り畳み式のフォア・グリップや伸縮式のストックを標準で装備しており、高い操作性を備えています。マズル・ブレイキを兼ねた竹槍状のスライド先端を使い物等に押し付ける事でコッキングが可能となっている他、トリガーの引き方に応じてセミ/フル・オートマチック射撃の切り替えが可能となっています。主にポーランド陸軍の特殊部隊及び空挺部隊への配備を想定して開発されましたが、東西冷戦中は東ドイツやベトナムをはじめ他の社会主義国にも輸出されました。また、中国では本銃をコピーした82式短機関銃と呼ばれるモデルが製造され、輸出が行われました。



スライド先端は竹槍状に突出しており、マズル・ブレイキとして機能します。



伸縮式のストックはレシーバー後端から引き出して使用します。



楕円形の中に数字の11が入ったラドム造兵廠の烙印が打刻されています。



マガジン・リリース・レバーはグリップ下部に設けられています。



Polish RPD Light Machinegun
Y118.800 (税込)
ポーランド製 RPD 軽機関銃
マガジン・ハウジング



楕円形の中に数字の11が入ったラドム造兵廠の烙印が見られます。



コッキング・ハンドルはボルト・キャリアと非連動式のタイプで折り畳みが可能です。



フィードカバーは後部のロックを前方にスライドさせる事で開きます。



バレル・ブレイク内にはクリーニング・キットの収納スペースが設けられています。



1944年にソ連で開発された軽機関銃で、SKSカービンやAK-47自動小銃と同じ弾薬を使用し、尚且つドイツのMG42の機構を取り入れたベルト給弾メカニズムなど、現代の分隊支援火器の先駆けとも言える画期的な特徴を備えていました。旧ワルシャワ条約機構加盟国では、1960年代にAKの派生型でマガジンを共用可能なRPK軽機関銃にその座を譲りましたが、ベルト式給弾でありながら軽量化に信頼性が高い為、現在でもアフリカやアジア諸国で使用され続けています。RPD軽機関銃は、戦後ポーランドでもRKM.Dの別名でライセンス生産が行われました。ポーランド製のRPDは、楕円形の中に数字の11が入ったラドム造兵廠の烙印が入っており、高品質な作りが特徴です。

Przekrój 7,62 mm Karabinek AKMS

旧ソ連がAK-47自動小銃の後継としてプレス製シーバーのAKM自動小銃を採用した事に伴い、ポーランドでも自国製のAK-47であるKbk AK (PMK)やKbk g wz. 1960の後継としてAKM自動小銃のライセンス生産が開始されました。本品は折り畳みストックを装備したAKMSタイプで、レシーバーには楕円内に数字の11が入ったポーランドの造兵廠刻印が打刻されている他、セクターの刻印はC(フル・オートマチック)及びP(セミ・オートマチック)となっています。また、ポーランド製AKMはオリジナルのソ連製に比べて高品質な作りとなっています。本品は欧米ではセクショナライズド・モデルと呼ばれる本体の一部をカットして内部機構が見えるように加工されたモデルで、通常の品よりも希少性が高くなっています。



Polish AKMS Assault Rifle,
Sectionalized Model
(No.C143) 197,200(税込)
ポーランド AKMS 自動小銃
カット・モデル



レシーバー左側面には製造年及びポーランド造兵廠の刻印が入っています。



セクター表記はC (連射)及びP (単射)のアルファベットで表示されています。



本体の下の方に折り込まれるストックはプレス製となっています。



発射ガスが流路のようにガス・ブロックの一部が切り取られています。



レシーバー・カバーの穴からはコイル・スプリングが確認出来ます。



ハンドガードの上部からはガス・ピストンの一部が確認出来ます。

片面のみカッター加工が施されたマガジンはダメージ・カットの装填も可能です。



7,62mm x 39 ダミーカートは197432(税込)で販売されています。

Karabinek-granatnik wzór 1960



Kbk g wz. 1960 Assault Rifle
¥120,000(税込)
Kbk g wz. 1960 自動小銃



レシーバー左側面には製造年及びポーランド造兵廠の刻印が入っています。



レシーバー・カバーがグレナード発射時の衝撃で外れないようスライスのロックが追加されています。



バット・ストックにはグレナード発射時の反動を軽減するゴム製バッドを装着する事が可能です。



グレナード・ランチャー本体、グレナード専用照準器、ゴム製バッドが付属致します。

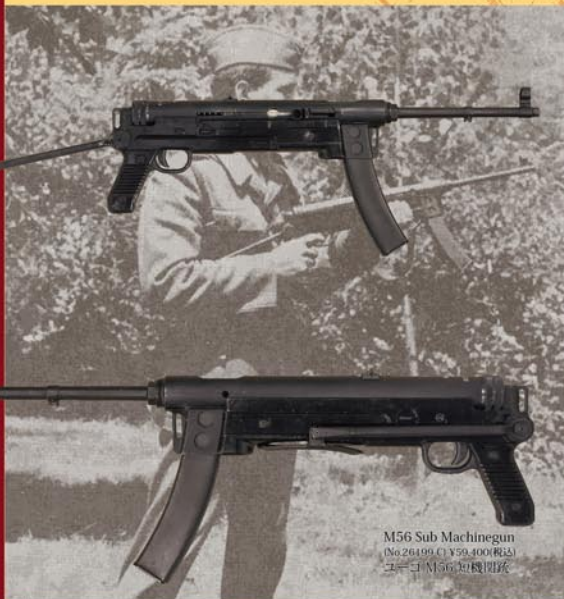


ガス・ブロックの右側面にはガス・カットオフスイッチが追加されています。

ポーランドでライセンス生産されたAK-47自動小銃にライフル・グレナードの発射機能を追加したモデルです。グレナード・ランチャーは銃身の先端に込込む事により装着され、フロント・サイト・ベースに設けられたブラッシュャーによって固定されます。グレナード用の照準器がフロント・サイト・ベースに取り付け可能となっている他、ガス・ブロックの右側面にはグレナード発射時に発射ガスがガス・シリンダー内へ流入する事を防ぐ為のガス・カットオフスイッチが設けられています。また、本品にはライフル・グレナード発射時の衝撃を軽減する為のゴム製バッドが装着されている他、通常の矢包が使用できないよう内部形状が変更された空砲専用の10連マガジンが付属します。

写真の銃はすべて写実模型です。

Аутомат 7,62 mm M56



M56 Sub Machinegun
(No.294199, C) ¥59,400(税込)
ユーゴM56短機関銃

旧ユーゴスラビア連邦で1956年に制式となった短機関銃です。樹脂製ハンドガードやフォールディング・ストック等にドイツのMP40短機関銃の影響を強く受けていますが、コッキング・ハンドルの位置変更やバナ・マガジンの使用、バヨネット・ラグの追加といった独自点も多く見受けられます。作動方式はオープン・ボルトのブローバック方式で、トリガー上方のセクターによりセミ/フル・オートマチック射撃の切り替えが可能です。コッキング・ハンドルを内側に押し込む事でボルトが固定され、マニュアル・セイフティとして機能します。当初は国営兵器廠で製造されていたが、ユーゴスラビア紛争の勃発後はセルビアのツァスタハームズで生産が続けられました。



銃身下部にバヨネット・ラグが装備されているのが特徴です。



マガジン・リリースはMP40のようなボタン式ではなく、レバー式となっています。



レシーバー上面にはユーゴスラビア社会主義連邦共和国の国章が見られます。



本体右側面のコッキング・ハンドルを内側に押し込む事によりボルトが固定されます。

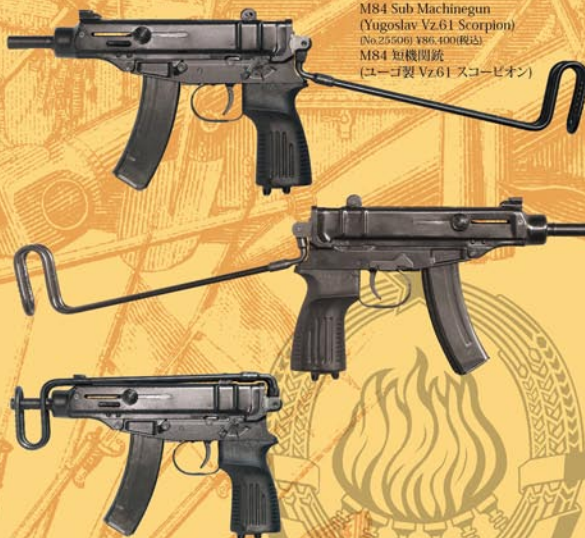
Застава M84 „Шкорпион”



グリップは黒色樹脂製の物が装備されています。



エジェクション・ポートは本体上部に設けられています。



M84 Sub Machinegun
(Yugoslav Vz.61 Scorpion)
(No.25506) ¥86,400(税込)
M84 短機関銃
(ユーゴ製 Vz.61 スコーピオン)



セクター表示は1(準射)・0(安全位置)・20(連射)の数字で表す。本体下面には製造年及びシリアルNo.が打刻されています。



チェコスロバキアのVz.61 スコーピオン短機関銃はユーゴスラビアでも採用され、当初チェコスロバキアから約3万挺を輸入して使用していましたが、1984年からは国内でのライセンス生産が開始されました。仕上げや斜印の違いを除けば、外観及び内部機構等はオリジナルのチェコスロバキア製Vz.61 スコーピオンと同等で、マガジンや独特な形状のホルスターも共用が可能です。M84短機関銃は、1984年から1992年までユーゴスラビア社会主義連邦で製造が行われ、ユーゴスラビアの崩壊後もセルビアのツァスタハームズで製造が続けられました。また、民間向けとしてセミ・オートマチック射撃に限定したM84A等のバリエーションの製造も行われました。

写真はすべてすべて国営兵器廠です。

הבור לילג ARM-

1967年の第三次中東戦争の実戦経験により、当時イスラエル国防軍の主要な自動小銃であったFN FALが砂塵に弱く、またアラブ側が使用していたAK-47と比較して全長が長い為に操作性が低いという欠点が露呈しました。この為、戦争終結後にイスラエルがFN FALを更新するべく、フィンランドが開発したAK-47の発展型であるパルメットRk.62をベースに独自改良を行い可産化したのがガリル自動小銃です。ガリル自動小銃は1973年に制式となりましたが、同年10月に勃発した第四次中東戦争により、実際の配備は1970年代半ば以降に行われる事となりました。しかしながら、ほぼ同時期に米軍からM16A1が安価に輸入可能となった為、軍内では一般的にはM16A1が使用され、ガリルは主に機甲部隊や砲兵に配備された他、輸出用等として製造されました。



Galil ARM Assault Rifle
(No.194,400(既込))
ガリル ARM 自動小銃
着剣装置付 樹脂製ハンドガード

ガリル自動小銃には、三脚の付いた重突撃銃から、短機関銃と同じ大きさのマイクロ・ガリルに至るまで、同じ機関部を使用しながら異なる用途に対応したガリル・ウェポン・システムと呼ばれるバリエーションが用意されています。ガリルARMはハンドガード下部に折り畳み可能な二脚や、遠距離射撃時の冷却効果を狙った大型のハンドガードを装備している他、折り畳み式のキャリング・ハンドルを装備した個体も存在する等、軽機関銃的な用途を想定したモデルです。また、ハンドガードや二脚の一部が栓抜きやワイヤー・カッターとして利用可能である等、独自の機能も備えています。ガリルARM自動小銃にはハンドガードの素材や着剣装置の有無によって複数のバリエーションが存在します。



Galil ARM Assault Rifle
(No.1405991) ¥183,000(既込)
ガリル ARM 自動小銃
着剣装置無 樹脂製ハンドガード



セレクター表示はヘブライ語表記となっています。



フロント・サイトには折り畳み式の夜間用サイトが装備されています。



ハンドガード下部の二脚固定用金具は栓抜きとして使用することが可能です。



リア・サイトにも折り畳み式の夜間用サイトが装備されています。



二脚の取付基盤はワイヤー・カッターとして使用する事が可能です。



ストック基部は上下の爪が噛み合ってロックされる構造となっています。



レシーバー・側面にはイスラエル国防軍のシンボルマークが加印されています。



グリップ上部のセレクター・レバーは本体右側面のセレクターと連動する構造となっています。

写真の銃はすべて写像機で撮影しています。

ৱৱিকম-ৱৱিকম

ৱৱিকম-ৱৱিকম IWI X-95

イスラエル・ウェポン・インダストリーズ (IWI) により製造されている、コンパクトなサイズのアサルト・カービンです。本家はタボール21自動小銃のバリエーションとして開発されましたが、コンパクト・タボールよりも全長が短いため、現在では従来のタボール・シリーズから独立した派生モデル扱いとされています。従来のタボール自動小銃とは異なるストック形状や、グリップ上部に移動したコッキング・ハンドル、専用サウンド・サプレッサーの取り付けを前提とした銃口周辺のデザインなど異なる部分が多く存在します。従来のタボール・シリーズと比較しても、X95は特殊部隊用兵器としての色合いが特に強く、メーカーのカatalogでも特殊部隊向けモデルとして取り扱われています。

Micro Galil MAR Short Carbine
(No.99103853) ¥270,000(税込)
マイクロ ガリル MAR
ショート・カービン

イスラエルがガリル自動小銃をベースに軍及び警察の特殊部隊や車両搭乗員向けとして開発した、コンパクトなサイズのショート・カービンです。バレルが210mmと短くなっている他、レシーバーやガス・ピストン、ハンドガード等も短縮されています。マイクロ・ガリルには生産時期によってハンドガード及びストックの形状等に複数のバリエーションが存在します。また、レシーバーと側面のコッキング・ハンドルの代わりに、ホルト・キャリアの左側面にコッキング・ハンドルが溶接固定されたモデルも製造されています。このようなモデルでは、コッキング・ハンドルが移動するレシーバー・カバーの隙間に、バネにより開閉するカバーも取り付けられています。



レシーバー左側面にはモデル名である699の刻印が入っています。



軽量の鋳造製の前方視認式ストックが装備されています。



リア・サイトは二段切り替え式のプリファイトタイプの物が装備されています。



鋳造製ハンドガードは上部が開いたデザインとなっており、内側にはヒートシールドが設けられています。



本体左側面にはスコープ・マウントを装着するためのレールが設けられています。



珍しいマイクロ ガリル専用の半ヤリング・バッグが付属します。



フォア・グリップの上下面には全長8cmのピタニールが装備されています。



コッキング・ハンドルと排莖(30度)は左右で変更可能な構造となっています。(無可動状態では左右の変更は出来ません。)



イスラエルのサブロライト社製 Mepro 21リフレックス・サイトが純正で装着可能です。



マガジン・キャッチ・ボタンはレシーバーの両側に設けられています。



ホルト・リリースはマガジン・ハウジングの後面に設けられています。



バックアップ用として、折り畳み式のフロントリア・サイトが装備されています。



X95 Assault Carbine
(No.40804502) ¥148,000(税込)
X95 自動小銃 (Mepro21 リフレックス・サイト付)

写真の価格はすべて税別です。

ミニ UZI 短機関銃



Mini UZI Sub Machinegun
(No.0572) ¥270,000(税込)
ミニ UZI 短機関銃



UZI短機関銃を警察関係の要請により小型化したモデルです。レシーバーの短縮化に伴ってボルトの後退量が減少した事に加え、メイン・スプリングが強化された事により、発射速度が950発/分にまで上昇しました。発射速度の上昇及び重量の軽減に伴い、スタンダードなUZI短機関銃に比べてフル・オートマチック射撃時のコントロールが難しくなりました。連射時のコントロールを容易にする為、銃身先端にはガス・ポートが追加されています。また、ストックがサイド・フォールディング式となっており、折り畳んだ状態ではバット・プレート部分がフォア・グリップとして機能します。



レシーバー右側面後部には「UZI MINI」のモデル名や使用弾薬表示、シリアルNo.等が印刻されています。



セレクトー表示は「A (連射)」、「R (単射)」、「S (安全位置)」のアルファベット表記となっています。



フルサイズのUZI短機関銃と同様に、グリップ後部にはトリップ・セーフティが装備されています。



射撃時の銃口の跳ね上りを軽減する為、銃身先端にはガス・ポートとして機能する2本のスリットが設けられています。



ストックはフルサイズのUZI短機関銃とは異なり、サイド・フォールディング式の物が装備されています。



リア・サイトは右側面のダイヤルを回転させる事により右の視認性が可能となっています。

マイクロ UZI 短機関銃



UZI短機関銃を小型化したミニUZIを、特殊部隊等の近接戦闘用向けとして更にコンパクトなサイズにしたのがこのマイクロUZIです。その極めてコンパクトなサイズの為、フル・オートマチック射撃時の発射速度は更に上昇して約1,200発/分となり、連射時のコントロールが非常に困難な物になっています。ミニUZIと同様に、銃口先端にはガス・ポートが設けられています。また、サイド・フォールディング・ストックはミニUZIの物を更に小型化したような形状となっており、折り畳み時にはバット・プレート部分がフォア・グリップとして機能します。後期型はトリガー・ガードに指掛けが追加されているのが特徴です。



レシーバー上面にはモデル名、使用弾薬、シリアルNo.に加えて、IMIのメーカー名が印刻されています。



銃口先端にはガス・ポートとして機能する2本のスリットが設けられています。



レシーバー上面にレールが装備され、フル・オートマチック射撃が可能なモデル (No.30407555、¥350,000 (税込)) もございます。コッキング・ハンドルは本体左側面に設置されています。



セレクトーは「F (射撃)」及び「S (安全位置)」のアルファベット表示となっています。



サイド・フォールディング・ストックの表面はゴム素材によりコーティングされています。



ストックを折り込むとフォア・グリップになります。



Micro UZI Sub Machinegun
(No.921420) ¥378,000(税込)
マイクロ UZI 短機関銃

写真の銃はすべて可能範囲です。

1956年式7.62毫米半自动步枪

旧ソ連のSKSカービンを中国がライセンス生産した銃で、1956年に中国軍用として生産が開始されました。中国の他、ベトナム等にも共産援助品として多くが輸出されました。機関部側面には漢字で五六式とモデル名が刻印されている他、中国の造兵廠刻印も入れられています。銃身に折り置まれる銃剣は、当初SKSカービンと同様のナイフ型でしたが、後にスパイク型銃剣に変更されました。五六式銃剣は1962年の中印国境紛争に投入された他、1979年の中越戦争でも中国軍により使用されており、採用後間もなくAK-47自動小銃が登場したのに活版の場が少なかった本国ソ連のSKSカービンよりも長期に渡って使用されました。

Type 56 Self-loading Rifle
V64800(税込)
五六式銃剣



マガジンは固定式ですが、SKSと同様に底部を開いて弾を装填する事が可能となっています。



バット・ストック内にはクリーニング・キットを収納する事が可能となっています。



ボルト・キャリアの前面にはストリッパ・クリップを使用した装填時にクリップを挿し込む溝が設けられています。



レシーバー左側面には造兵廠を示す数字やシリアルNo.の刻印が見られます。

1963年式7.62毫米自动步枪

1960年代に中国が五六式騎銃をベースに独自開発した、セレクトィブ・ファイアの自動小銃です。閉鎖機構が五六式騎銃のチェルディング・ボルト方式に変更された他、ガス・レギュレーター(駆動)が追加されました。トリガー・ガード右前部にはフル・オートマチック射撃用のセクターが追加されており、AK-47用マガジンに類似した着脱式の20連バナ・マガジンが使用可能です。また、ボルト・ストップが装備されている為、銃本体上部からのストリッパ・クリップを用いた装填も可能となっています。結果的にSKSとAK-47の中間的な特性を持つ銃となり、特にセミ・オートマチック射撃での良好な命中精度は高く評価されました。



Type 63 Self-loading Rifle
No.13859H82) V343.600(税込)
六三式自動小銃



セクターは数字表記となっており、10(安全位置)・1(準射)・2(連射)で表示されています。



バット・プレートは回転させて開閉する事が可能で、ストック内にはクリーニング・キットの収納スペースが設けられています。



空腔を使用してライフル・グレネードを発射する際には、ガス・レギュレーターによりガス圧調整が可能となっています。



レシーバー左側面にはモデル名やシリアルNo.の他、造兵廠の刻印が見られます。

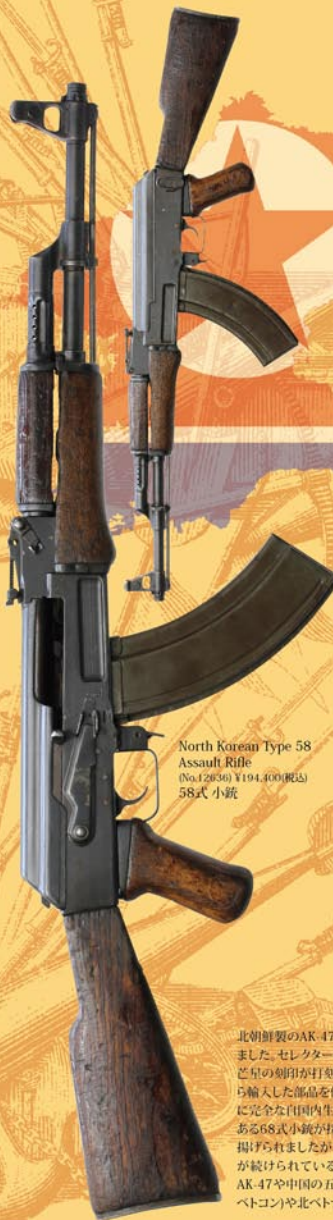


専用マガジンは付属しておりませんが、本銃と同時期購入に限り、中国製20連マガジンを¥19,140(税込)にてご提供致します。

56式自动步枪

中国北方工業公司(ノリンコ)が製造しているAK-47自動小銃のコピーです。AK-47 III型をベースとし、当初は削り出しレシーバーを備えていましたが、後にプレス製レシーバーへと変更されました。本家ロシア製と異なり、フロント・サイト・ガードの上部が完全に閉じた特徴的な形状となっている他、銃身下に折り畳み式のスパイク・パヨネットを備えたモデルも製造されています。現在までに各型合わせて約1,000~1,500万挺が生産されたと言われています。中国国内向けの他、海外へも大量に輸出され、現在も多くの紛争地で使用されています。またベトナム戦争中には、中国の支援を受けた南ベトナム解放民族戦線(通称ベトコン)や北ベトナム軍によっても多数が使用されました。

58식 자동보총



North Korean Type 58
Assault Rifle
(No.12636) ¥194,400(税込)
58式小銃

Chinese Norinco Type 56 Assault Rifle
(No.2621366) ¥97,200(税込)
五六式小銃



レシーバー左側面には造兵廠を示す数字やシリアルNo.の烙印が見られます。



スパイク銃剣は切断されていますが、銃剣基部の折り畳みは可能です。



リア・サイトの最短戦闘距離表示は800m、最短戦闘距離はDで表記されています。



バストックはAK-47と同様の曲銃床タイプとなっています。



フロント・サイト・ガードの上部が完全に閉じた特徴的な形状となっています。



セレクターの表示はHとDのアルファベット表示となっています。



シリアルNo.の前には五芒星の烙印が入っています。



セレクターの表示はハングル表記となっています。



リア・サイトの最短戦闘距離はハングルの他にロシア語表記の砲体も見られます。



ストックやハンドガード、グリップといった木部は単材製となっています。



リブの無いタイプのロシア製初期型マガジンが付属します。

北朝鮮製のAK-47自動小銃で、朝鮮戦争の休戦後に製造が開始されました。セレクターがハングル表記となっている他、レシーバーには五芒星の烙印が打刻されているのが特徴となっています。当初はソ連から輸入した部品を使用したノックダウン生産が行われていましたが、後に完全な自国内生産へと移行しました。1968年に北朝鮮製のAKMである68式小銃が採用されると、58式小銃は徐々に一般部隊から引き揚げられましたが、現在でも北朝鮮の民兵部隊や警察の一部で usage が続けられていると言われています。ベトナム戦争中には、ソ連のAK-47や中国の五六式小銃等と共に、南ベトナム解放民族戦線(通称ベトコン)や北ベトナム軍によっても使用されました。

写真の銃はすべて写真が実銃です。

M1A 7,62mm Rifle by Norinco

M1A Rifle made by North Industries Corporation
(No.N140036) Y216,000(税込)
M1A ライフル (Norinco製)

M1A自動小銃は、米軍で1960年代に制式採用されていたM14ライフルからフル・オートマチック射撃機能を取り除いたコマンド・モデルで、1974年からスプリングフィールド・アーモリーで製造が始められました。

原型となったM14ライフルは、全長が長く取の回しが良くなかった事や、7.62mm弾のフル・オートマチック射撃時のコントロールが非常に難しかったため、1960年代半ばにはM16自動小銃にその地位を譲る事となりました。しかしながら、砂漠のようなロング・レンジの戦域では5.56mm弾よりも射程及び威力に優れている事から、近年では7.62mm弾及びこれを使用するM14の有効性が再認識されています。本品は中国北方工業公司（通称ノリンコ）が製造したM1A自動小銃です。ノリンコ社は中国軍向けの軍用銃の他、各国銃のコピー生産も行っており、海外市場へも積極的に展開しています。



機関部後部の左側面にはシリアルNo.が刻印されています。



M1Aタイプの為、本体右側面にはセレクター・レバーは有りません。機関部後部上面の刻印は省略されています。



銃身は通常のM14やM1Aに比べて短いショート・バレルタイプとなっています。



ストックにはショルダー・レスト及びクリーニング・ポットを収納する為のコンパートメントが設けられています。

1980年式通用机枪



Chinese M80 General Purpose Machinegun
(No.S13429) ¥270,000 (税込)
中国 M80 汎用機関銃

ソ連で開発されたPKM 汎用機関銃を中国のノリンコ社(中国北方工業公司)がコピー生産したモデルで、少数が中国軍によって使用されている以外ほとんど輸出用として生産されており、バングラデシュやスリランカ軍が制式採用しています。基本的なデザインはソ連製オリジナルのPKMとはほぼ同様で、軽量かつ高い操作性といった特徴も受け継いでいます。ソ連製PKMとの主な違いは刻印で、レシーバー・カバー 上部には三角形の中に「CA」の文字が入った刻印及び「M80」のモデル名刻印が見られます。輸出用の為、セーフティ表示も漢字ではなく英語での表記となっています。80式汎用機関銃はコーゴ内戦やアフガニスタンの地域紛争等で多数が使用されました。



バインド・ストック後部にはショルダー・レスト及びオライナーが装備されています。



フィード・カバー 上面にはモデル名やシリアルNo.の他、三角形の中に「CA」の文字が入った刻印が見られます。



本銃ストックには一般的なPKMと同様に軽量化の為の穴が設けられており、上面に段差の付いたデザインとなっています。



セーフティ・レバーの表示は英語で「FIRE」と表記されており、レバーを前方に回転させると発射位置となります。

写真の銃はすべて写実機銃です。

US Military Rifles & Carbines in the 19th Century, made in Italy

Winchester Rifles & Carbines The American Legend



Springfield M1861 Minsket
Davide Pedersoli Reproduction
(複製品, No.XSP48070) 378,000円税込(3900)
スプリングフィールド M1861 マスケット

南北戦争中に北軍軍医が主力小銃として使用した高容量打撃小銃です。
増設銃身によりライフルングを兼ねたミニニュー形式のライフル・マスケットの複製品です。



Sharps M1859 Carbine
Davide Pedersoli Reproduction
(複製品, No.SH24460) 410,000円税込(3900)
シャープス M1859 カービン

南北戦争で使用された旅団長級使用する車銃の後装式打撃銃です。
本品はイタリアのベネチア州が現在複製中に複製した品です。



Sharps M1874 Carbine
Davide Pedersoli Reproduction
(複製品, No.SH25000) 378,000円税込(3710)
シャープス M1874 カービン

センチネル・ブレイク用として当初から設計されたM1874を複製した品で
す。ハント・ストリッパには判読管を入れるボタがあります。



Henry M1860 Rifle
A. Uberti Reproduction
(複製品, No.H01770) 378,000円税込(4010)
ヘンリー M1860 ライフル

レバー・アクションのボルト・アクション・リボルバー・スカーペル・アップ・ライフル
ハンドガード・目撃レバー・アクションの複製品であるこの複製
品です。



Winchester M66 "Yellow Boy" Rifle
A. Uberti Reproduction
(複製品, No.W1700) 440,000円税込(4200)
ウィンチェスター M66 "イエローボーイ" ライフル

ヘンリー・ライフルのフレームは前面にロー・アクション・ガードを取り、銃身に
ハンドガードも追加してウィンチェスター・社から改良しました。その為の
A. Uberti 複製品複製品です。



Winchester M73 Rifle
(複製品, No.W2350) 378,000円税込(4010)
ウィンチェスター M73 ライフル

リバー・アクション銃を使用する、M1860のフレームM1860の改良品で、ハンドガード・
センチネル・ブレイク用の直装式フレームに改良し、タネ・カービンを追加しました。



Winchester M92 Saddle Ring Carbine
Chiappa Firearms Reproduction
(複製品, No.F2550) 378,000円税込(4010)
ウィンチェスター M92 サドル・リング・カービン

ウィンチェスター・社・リバー・アクション・ライフル・フレームが複製した小銃
弾用のM92を複製品にM1860の複製品、M92の複製品です。



Winchester M94 Rifle
(複製品, No.W2000) 378,000円税込(4010)
ウィンチェスター M94 ライフル

M92の改良品で1894年の改良品。一甲尾は上向きに改良されました。
た、ウィンチェスター・社・リバー・アクションの複製品、本品は1925年製
です。

Bolt Action Rifles of the Great Powers in the 19th Century



German Mauser M1871 Infantry Rifle
No. 63305 1432,000発込(3842)
ドイツ モーゼル Gew.71 歩兵銃



French Chassepot M1866 Infantry Rifle
No. 42982 1048,000発込(3033)
フランス シヤスポー Mle1866 歩兵銃



Russian Berdan M1870 II Infantry Rifle
No. 48008 1480,000発込(3848)
ロシア ベルダン M1870 歩兵銃 II型



Italian Vetterli M1870-87 15 Infantry Rifle
No. 63509 977,000発込(1727)
イタリア ベチエーリ M1870-87 15 歩兵銃



Springfield M1873 Trap door Carbine
No. 4043 913,780,000発込(1502)
スプリングフィールド M1873
トラップドア カービン

19世紀末の自衛隊や軍隊の主力銃は、後述のシャープス・M1863やコルベット・M1863など、黒色火薬を用いた銃である。この銃は、黒色火薬を用いた銃である。

Sharps M1863 Metallic Cartridge Conversion Carbine

No. 62250 9810,000発込(304)
シャープス M1863 メタリックカートリッジ
コンバージョン カービン

シャープス M1863は、黒色火薬を用いた銃である。この銃は、黒色火薬を用いた銃である。



Burnside M1864 Carbine
No. 6341 1381,864,000発込(1549)
バーンサイド M1864 カービン

バーンサイド M1864カービンは、黒色火薬を用いた銃である。この銃は、黒色火薬を用いた銃である。

US Cavalry Carbines in the 19th Century

Spencer M1860 Carbine
No. 34138 1364,000発込(1549)
スペンサー M1860 カービン

スペンサー M1860カービンは、黒色火薬を用いた銃である。この銃は、黒色火薬を用いた銃である。

Burnside M1864 Carbine
No. 6341 1381,864,000発込(1549)
バーンサイド M1864 カービン

バーンサイド M1864カービンは、黒色火薬を用いた銃である。この銃は、黒色火薬を用いた銃である。

US Starr M1858 Double Action Percussion Revolver

US Savage M1861 Navy Percussion Revolver



STARR ARMS CO. NEW YORK.



米国六連発管打式拳銃
スター M1858
ダブルアクション・リボルバー
US Starr M1858
Double Action Percussion Revolver
Cal. 44in. Gin. Barrel, Circa 1858
(銃砲刀剣類登録証付式銃)
(Serial No.1809) ¥3,240,000(税込)【3623】

STARRS PATENT JAN. 15. 1858.



米国六連発管打式拳銃
サベージ M1861
ネービーリボルバー
US Savage M1861
Navy Percussion Revolver
Cal. .36in. 7 1/8in. Barrel, Circa 1861
(銃砲刀剣類登録証付式銃)
(Serial No.13089) ¥3,240,000(税込)【3585】



南北戦争で使用された代表的な管打式のリボルバーで、生産された23,000挺の内、21,000挺が北軍に納入されました。通常のトリガーの後方にはシングル・アクション専用の小型トリガーが設けられており、前方のトリガー裏側の突起をスライドさせる事により、シングル・アクション及びダブル・アクション・モードの選択が可能となっています。後にシングル・アクションのみに限定したモデルの生産も行われました。フレームはシンダー後方のサム・スクリュをを外す事によりトップ・ブレイクが可能となり、シンダーを取り外して装填済みのシンダーと交換する事が可能です。



1861年から1862年にかけて、サベージ・リボルビング・ファイアーアームズ・カンパニーで僅か2万挺ほどが製造された大型の6連発リボルバーです。本銃は製造された品の半数以上が南北戦争中に北軍へ納入されたため、別名「ガバメント・コントラクト拳銃」とも呼ばれています。現物は民間市場においても販売されましたが、その多くが南軍によっても制式採用されました。本銃はヘンリー・S・ノースのバテントによる「フロント・ダブル・アクション」と呼ばれる機構を採用しており、トリガー下部にリング状のコッキング・レバーが付いた特殊な形状をしています。独特の形状の大型トリガー・ガードは、接近戦で弾を撃ち尽くした際に棍棒の代わりに使用できるほど頑丈であったと言われています。



www.regimentals.jp



PATENTED SEP 14 1858
E. REMINGTON & CO. NEW YORK U.S.A.
NEW MODEL



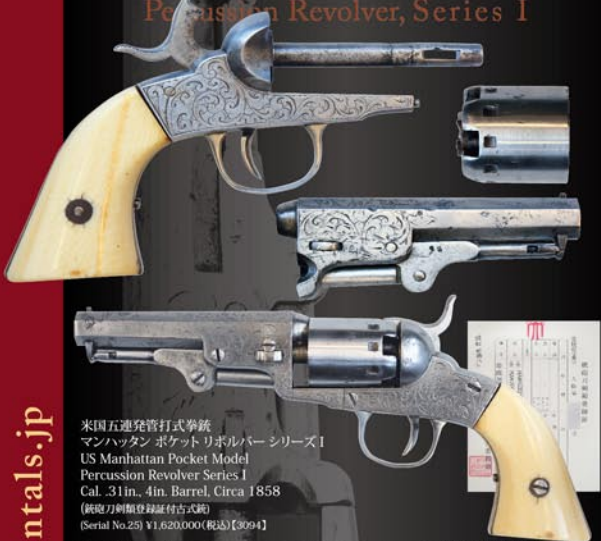
米国六連発管打式拳銃
マンハッタン ネビー リボルバー
シリーズV
US Manhattan Navy Percussion Revolver
Series V
Cal.36in.,4in.Barrel, Circa 1867-1868
(銃造刀剣類登録証付古式銃)
[Serial No.9130] ¥2,376,000(税込)【4301】

A Smith & Wesson Model 10 revolver is shown in profile, facing right. It features a dark brown wooden grip, a brass trigger guard, and a silver-colored metal frame. The revolver is mounted on a green, textured background within a display case. Two small white labels are visible at the top of the case.



写真の銃は教育委員会発行の「銃砲刀剣類所持等取締法」が付いた可動する実物の古式銃です。(無可動実銃ではありません)

US Manhattan Pocket Model Percussion Revolver, Series I



米国五連発管打式拳銃
マンハッタン ポケットリボルバー シリーズI
US Manhattan Pocket Model
Percussion Revolver Series I
Cal. .31in., 4in. Barrel, Circa 1858
(銃砲刀剣類登録証付古式銃)
(Serial No.25) ¥1,620,000(税込)【3094】

軍用向けであった.36口径ネービー・モデルに対して、マンハッタン社が民間向けに製造したのは.31口径のポケット・モデルです。マンハッタン社のネービー・モデルでは基本的にコルトM1851ネービーの構造を踏襲していましたが、ポケット・モデルはコルトM1849ポケットと異なり、フレーム左側面のプレートを取り外す事によって内部のメンテナンスが容易な構造となりました。初期生産品にあたるシリーズIは、1858年初頭から1860年1月までの約二年間しか製造されず、総生産数も僅か1,050挺程度と言われています。本品は1858年に製造されたシリアルNo. 25の品で、現存するシリーズIの中でも最も初期の生産品と考えられます。



US Colt M1849 Pocket Percussion Revolver 6 inch Model



米国六連発管打式拳銃
コルト M1849 ポケットリボルバー
6インチ・モデル
Colt M1849 Pocket
Percussion Revolver
Cal. .31in., 6in. Barrel, Circa 1865
(銃砲刀剣類登録証付古式銃)
(Serial No.253677) ¥2,484,000(税込)【4017】

サミュエル・コルト社で1850年から1873年にかけて製造されたパーカッション・リボルバーです。M1849ポケット・リボルバーは全て.31口径ですが、5連発及び6連発の二種類が製造された他、銃身長が3、4.5、6インチのバリエーションが存在します。M1851ネービーが軍用として採用されたのに対し、M1849ポケットは主に民間用として販売されました。ワシントン表面には製馬車と製馬車強盗による戦闘シーンのエンブレップが施されています。コルトM1849ポケットは合計約34万挺が生産されましたが、6インチ・モデルの生産数は少数にとどまり、M1851ネービーをそのままコンバクトにした形状からも人気の高い製品です。

The American & English Pepper-box Revolvers

19世紀初頭にパーカッション・キャップ(雷管)を使用して銃の発射薬に点火を行う管打ち式と呼ばれる発火方式が開発され、従来の火打ち石式(フリント・ロック)に代わる新たな発火方式として、これを用いた銃器が次々と開発されるようになりました。

フリント・ロックの時代から、拳銃の装弾数を増やす事を目的として複数の独立した銃身を装備した拳銃自体は少数製造されていたが、パーカッション方式の導入によって連発式拳銃の開発はさらに加速する事となりました。

初期のパーカッション式連発銃としては、固定式の多連装銃身を装備し、ハンマー先端に装備された回転式の撃発用プレート回す事により、複数の銃身から順番に射撃を行うリグビー・タイプと呼ばれるモデルが作られました。

しかしながら、より実用的な連発式の管打ち式拳銃を求める市場の要望は強く、その後1830年代に入ると、一体構造のシリンダーとバレル(銃身)が回転する構造となった黎明期のリボルバー拳銃であるペッパーボックスピストル(Pepperbox pistol)が開発されました。ペッパーボックスは、薬室を兼ねた銃身と一体化したシリンダーを回転させる事により、連発が可能となっていました。ペッパーボックスの名称は、形状がコショウ挽き(スパイス・ミル)のように見える事に由来します。ペッパーボックス・ピストルは米国では1830年代後半から1850年代に普及し、西部開拓時代初期に大流行しました。

このペッパーボックスは、複数の独立した銃身を束ねるのではなく、シリンダーに設けられた複数の穴を銃身とする構造であるため強度的に優れており、製造により大量生産が可能でした。しかしながら、シリンダーとバレルが一体構造であるため口径を大型化すると重心が前方に偏る欠点がありました。また、シリンダーと一緒にバレルも回転する事から、固定銃身と比較して命中精度が劣るといった点もありました。その為、1860年代初頭頃にはそのほとんどがその姿を消す事になりました。

ペッパーボックス・ピストルには、一発射撃するとシリンダー内の弾薬が全弾燃焼して発射されてしまう「チェーンファイア」と呼ばれる現象が発生する恐れがありましたが、この問題はペッパーボックスに限らず、当時のパーカッション式回転拳銃全般が抱えていた問題でした。また、前方に銃身のないペッパーボックスでは、チェーンファイアが発生した場合にも全弾が飛び出すだけで、銃本体にはダメージを引き起こさないといった利点もありました。ペッパーボックスとは異なり、銃身が固定されたタイプのリボルバーでチェーンファイアが発生した場合は、致命的なダメージを銃本体と射手に及ぼしました。



アレン & サバー社製の
バーハンマー・ペッパーボックス



アレン社以外で製造された
米国製バーハンマー・ペッパーボックス
(写真上) マンハッタン社製
(写真下) バイオニア・アームズ社製

米国における最初のペッパーボックス・ピストルとしては、パートンとベンジャミンのダーリング兄弟が1836年に特許を取得したダーリング・ペッパーボックスが知られています。

このダーリング・ペッパーボックスでは、後のシングル・アクション・リボルバーと同様のハンマーを起こす操作に連動してシリンダーが回転する構造となっていました。しかしながら、この特許はダーリング兄弟より7週間ほど早くサミュエル・コルトが取得していた同様のバントに抵触していた為、彼らは間もなくこの回転式拳銃の生産停止を余儀なくされています。

その後、米国では1845年にイーサン・アレンが回転式の多連装銃身と棒状のバーハンマーを組み合わせた回転式拳銃の特許を取得し、これに1837年に彼自身が取得したダブル・アクションのトリガー・メカニズムを組み合わせる事により、ペッパーボックス型の回転拳銃のデザインを完成させました。

バーハンマー・タイプのペッパーボックスは、米国ではイーサン・アレンの特許が失効した1860年代初頭頃から様々なメーカーにより製造されましたが、英国では米国よりも早い1835年頃には既にバーハンマー・タイプのペッパーボックスが開発されていました。

英国製のバーハンマー・ペッパーボックスは本格的なパーカッション・リボルバーが普及する1860年までの約25年間に多くのメーカーによって製造され、製造年代によってグループI(1835 ~ 1840)、グループII(1840年代)、グループIII(1850 ~ 1860)の3つのグループに大別する事が可能です。



グリップ下端がフラットな形状で、スミス・タイプのグリップが装備された
グループIIIの英国製
バーハンマー・ペッパーボックス

グループIは英国製バーハンマーの中でも最も初期の製品で、銃本体には入念な彫刻が施されており、グリップ形状も様々なタイプの物が製造されました。グループIIは中期に製造された品で、バグ・タイプ・タケットと呼ばれるグリップ下端が丸みを帯びた形状の物が主流となりました。グループIIIは英国製バーハンマー・ペッパーボックスの中でも最も後期に製造された品で、この頃から多くの新興メーカーがペッパーボックス市場に参入しました。グループIIIでは製造コストを下げる為、グリップ形状は下端がフラットとなった品が主流となり、グリップ表面には荒いチェッカーが施された物が大半となっていますが、稀にチェッカーのないスミス・タイプの品も存在します。銃本体に施される彫刻についても従来の製品よりも省力化されており、メーカー名が入っていない製品も数多く存在します。

英国では上記のようなバーハンマー・ペッパーボックス以外にも、ジョセフ・ロック・クーパー(Joseph Rock Cooper)によって開発されたリング・トリガーと本体下部のアンダー・ハンマーを組み合わせた特殊なペッパーボックス・ピストルも製造されました。

殆どのクーパー製のペッパーボックスの本体には「J.R. Coopers Patent」や「J.R. Cooper Patentee」等といった様々な形でクーパーの名前が入っていますが、実際にはリング・トリガーとアンダー・ハンマーを組み合わせたクーパーのシステムが英国内でクーパーにより特許登録される事はありませんでした。

クーパー・パテント・ペッパーボックスはクーパー以外のメーカーによって少数が製造され、バントレー・リボルバーで有名なジョセフ・バントレー等もクーパー・パテント・ペッパーボックスの製造を行っていた事が知られています。



リング・トリガーと
アンダー・ハンマーを装備した
J.R. クーパー製のペッパーボックス

English Single Shot Flintlock Pistol by BARNETT



英国単発火打石拳銃
イギリス フリント・ロックピストル
(Barnett社製)
English Single Shot Flintlock Pistol
by BARNETT
Cal.18mm, Circa 1800
Overall Length 262mm
(銃砲刀剣類登録証付古式銃)
¥648,000(税込)【4945】

英国で18世紀後半から19世紀初頭に製造されたと思われる単発のフリント・ロック式ピストルです。本品を製造したバーネット (Barnett) 社は、英国ロンドンのガンメーカーで、1637年にバーネットの一族からロンドンの銃工ギルドの機軸を輩出する等、300年近くに渡って英国で名声を誇っていたメーカーです。本品は一般にコースト・ガード・パターン (Coast Guard Pattern) と呼ばれる形状のフリント・ロック・ピストルで、当時の軍用拳銃を携帯に便利に小型化した上で、引っ掛かりを防ぐため全体的に丸みを帯びた形状となっています。通常の陸軍用拳銃よりも小型であることから、将校の護身用としても支給されました。



English J.R.Cooper Ring Trigger Underhammer Pepperbox

本品は英国のジョセフ・ロック・クーパー (Joseph Rock Cooper) によって開発された、リング・トリガーと本体下部のアンダー・ハンマーを組み合わせた特殊なペッパーボックス・ピストルです。クーパー製ペッパーボックスには、本品のようにクーパーのバテント刻印が本体に入った個体が存在しますが、実際にはクーパーのシステムが英国内でバテント登録される事はありませんでした。また、一般的にクーパー・バテント・ペッパーボックスは洋白 (German Silver) 製のフレームを持つ個体が多く見られますが、本品のように鉄製のフレームを持つ個体もごく少数が確認されています。



J.R. COOPERS PATENT



英国六連発管打式回転銃身拳銃
英国製ペッパーボックス (Cooper社製)
English J.R.Cooper Ring Trigger
Underhammer Pepperbox
Cal.10mm, Circa 1850
Overall Length 193mm
(銃砲刀剣類登録証付古式銃)
¥1,080,000(税込)【4980】

写真の銃は数寄屋敷会館の「銃砲刀剣類登録証」が貼付された可動する実物の古式銃です。(非可動複製ではありません)

US Allen & Thurber Bar Hammer Pepperbox



19世紀中頃の米国の中堅ガン・メーカーであるアレン & サバー社が製造したダブル・アクション方式のペッパーボックス・ピストルです。1845年にイーサン・アレンは回転式の多連装銃身とバーハンマーを組み合わせた回転式拳銃の特許を取得しており、これに1837年に彼自身が取得したダブル・アクション機構を組み合わせる事により、ペッパーボックスのデザインを完成させました。本品はアレン社がウスターへ移転後に製造した後期型です。後期型はフレームからグリップ・エンドまで滑らかな曲線を描いた特徴的な形状を持っており、銃身後部にニッブル・シールドが付いた個体が多く見られます。

米国六連発管打式回転銃身拳銃
アレン & サバー バーハンマー
ペッパーボックス
US Allen & Thurber Bar Hammer
Pepperbox
Cal.8mm, Circa 1847-1854
Overall Length 195mm
(銃砲刀剣類登録証付古式銃)

(Serial No.342) ¥1,080,000(税込) 【4757】



US Manhattan Fire Arms Manufacturing Co. Bar Hammer Pepperbox



マンハッタン ファイアアームズ製造会社が1859年に製造したペッパーボックスです。マンハッタン社が製造を開始した1856年頃にはペッパーボックスは既に時代遅れになっており、結果的に1859年までの3年間に約3,000挺が製造されたのみでした。マンハッタン社製のペッパーボックスは銃身本数が3, 5, 6本のバリエーションが存在し、本品は6連銃身のモデルです。マンハッタン社製ペッパーボックスの内、1856年製の初期型ではメーカー名が銃身に刻印されていますが、それ以降のモデル(1857~59年製)ではハンマーの左側面にメーカー刻印が入っています。



米国六連発管打式回転銃身拳銃
マンハッタン バーハンマー
ペッパーボックス
US Manhattan Bar Hammer
Pepperbox, Cal.9mm, Circa 1859
Overall Length 188mm
(銃砲刀剣類登録証付古式銃)
(Serial No.52) ¥1,404,000(税込) 【4300】



MANHATTAN F.A.M.F.G. CO.
NEW YORK

写真の銃は教育委員会発行の「銃砲刀剣類登録証」が付いた可動する実物の古式銃です。(許可制販売ではありません)

The English Percussion Revolvers

ペッパー・ボックス・ピストルから本格的なリボルバーへの移行期である1840年代初頭、英国ではペッパー・ボックスを原型とした安価でシンプルな構造のトランジショナル(過渡期)・パターンと呼ばれる回転式拳銃が開発されました。



典型的なトランジショナル・パターンリボルバー

初期のトランジショナル・リボルバーはオープン・フレーム構造で、銃身はフレーム下部から伸びたフレーム・バーに対して蝶ネジ等により固定されていました。作動はダブル・アクション方式で、主にバー・ハンマー・タイプの撃鉄が本体上部に装備されていました。

初期のトランジショナル・リボルバーではトリガーとシリンダーの連動機構がなく、シリンダーを手動で回転させて射撃を行う製品も多く作られましたが、後期の製品ではピン・ストップと呼ばれるシリンダー・ストップ機構が追加されました。

しかしながら、シリンダーと銃身の位置調整精度が低く、最終的には射手が手動でシリンダー位置を微調整して射撃を行う必要がある製品も多く見られました。トランジショナル・リボルバーは構造的にペッパー・ボックスに類似していましたが、ペッパー・ボックスからトランジショナルへの改修はコストの関係から殆ど行われませんでした。

トランジショナル・リボルバーには耐久性や命中精度に問題が有る製品も多く、各バカッション・ニップルの間に隔壁が設けられていなかった事から、射撃時に複数のシリンダーが同時に発火してしまう恐れも有りました。また、銃身とシリンダーの間の隙間が大きく、多量の発射ガスが漏れ出すといった欠点も存在しました。その為、1850年代に入ってアダムスや英国コルト製のリボルバーが普及し始めるとトランジショナル・リボルバーは急速に姿を消す事になりました。

ロバート・アダムスによる最初のダブル・アクション・リボルバーは1851年のロンドン万博で初めて公開されました。ロンドン万博には米国からサミュエル・コルトも出展しており、同年9月には英国政府の小火器委員会の立ち合いの下、アダムス・リボルバーとコルト・ドラグーンのパブリック性能試験が行われる事になりました。アダムス製のリボルバーは性能試験で命中精度を除くあらゆる点でコルトよりも優れた結果を示しましたが、最終的にはいずれのリボルバーも軍用としては採用されませんでした。

アダムス・リボルバーが採用されなかった原因としては、初期のアダムス・リボルバーがローディング・レバーを装備していなかった事などが考えられています。

アダムスは当初、リボルバーを大量生産する為の設備を有していなかったが、市場のアダムス・リボルバーに対する需要の高まりに応えるべく、英国やベルギーの他のガンズミにアダムス・リボルバーの製造ライセンスを供与しました。

後にダブル・トリガー・リボルバーといった独自の製品を発表する事になるトランター社もこのアダムス・リボルバーのライセンス生産を行っていました。



ディーン&アダムス社製 M1851 リボルバー ドラグーン モデル

初期のアダムス・リボルバーはディーン&アダムス社により1856年まで製造が行われましたが、1856年にアダムスがリボルバーの内部機構の改良の為フレデリック・ボーモント中尉のpatentを購入すると、アダムスはロンドン・アーモリー社へと移り、ボーモント・アダムスと呼ばれるダブル・アクション・リボルバーを開発しました。

ボーモント・アダムス・リボルバーには、初期のアダムス・リボルバーには装備されていなかったローディング・レバーが装備されるようになり、弾薬の装填操作が格段に容易になりました。この改良型ボーモント・アダムス・リボルバーは英軍用として1856年に制式採用され、1861年まで調達が行われた他、南北戦争勃発の4年前である1857年には米国へも輸出が行われました。



銃身左側にローディング・レバーを装備したボーモント・アダムス・リボルバー

1850年代にアダムス・リボルバーをライセンス生産していたメーカーの一つであるウィリアム・トランター社は、1853年にアダムス・リボルバーの部品や完成品の製造を開始しましたが、アダムス・リボルバーの頑丈なフレームを応用して独自のダブル・トリガー・リボルバーの製造も行いました。

トランターのダブル・アクション・リボルバーは、通常のトリガーの他に、トリガー・ガード下部にもう一本のトリガーを装備していました。2本のトリガーの内、トリガー・ガード下部のトリガーのみを引くとハンマーがフルコック状態まで持ち上がり、この状態で上部のトリガーを引くとハンマーがリリースされて発射が行われました。また、上部のトリガーと下部のトリガーを同時に引く事により、ハンマーが持ち上がった直後にリリースされるという、シングル・アクションとダブル・アクションの中間ともいえるメカニズムを備えていました。



特殊なローディング・レバーを備えたトランターダブルトリガー・リボルバー

1850年代に英国で製造されたリボルバーには、アダムス系リボルバーの他にもパーミンガムのガンメーカーであるウェブリー社やジョセフ・ベントレー等が製造した品も多く見られます。

また、ベントレーのpatentを使用してパーミンガムの他のガンメーカーがハンドメイドで製造した製品も存在し、これらは一般的にウェブリー・ベントレー・リボルバーと呼ばれています。

これらの通称ウェブリー・ベントレー・リボルバーはオリジナルのベントレー・リボルバーとは異なり、フレームの左側にロック・プレートが設けられているのが特徴ですが、銃身長や口径等をはじめ、フレームの構造など様々なバリエーションが存在します。

ウェブリー・ベントレー・リボルバーの多くはローディング・レバーが装備されていませんでしたが、一部にはKent型のローディング・レバーが本体の左側に装備された品も見られます。

グリップは左右2枚のグリップ・パネルの中心部を一本の蝶子により固定しており、これは当時パーミンガムで製造されたリボルバーに多く見られる構造となっています。これらのウェブリー・ベントレー・タイプのリボルバーは非常に多くのバリエーションが存在し、海外の研究者の間でも未だ体系的な分類がなされていない事から、今後のさらなる研究が期待されます。



Kent型ローディング・レバー及びロック・プレートを装備した各種のウェブリー・ベントレー・リボルバー

写真の銃は、全て在庫品の教育委員会発行「銃剣刀刺戟登録証」が付いた、可動する実物の古式銃です。

English Transitional Percussion Revolver

www.regimentals.jp

英国で製造された
トランジショナル・
パーカーのリボル
バーで、銃身下部
には英国バーミン
ガムのブルーワシ
ン印が見られます。
本品にはグリップ・
エンドがフラットな形
状のウォルナット製
グリップが取り付け
られており、顧客は
チェッカーリングが
入っています。グ
リップのバック・ス
トラップとエンド・

キャップには唐草模様に似たスク
ロール・エングレイビングと呼ばれる
彫刻が施されている他、フレームやサ
イド・バレル、トリガー・ガードにも同
様の彫刻が入っています。一方、銃身
及びシリンダーには彫刻が施され
ておらず、これもトランジショナル・
リボルバーの特徴の一つとなっ
ています。

英国六連発移行期官打式拳銃
イギリス トランジショナル
パーカッション リボルバー
English Transitional Percussion Revolver
Cal. 9mm, Circa 1840-45
Overall Length 302mm
(銃砲刀剣類登録証付古式銃)
¥1,296,000(税込)【4298】

English Adams M1851 Percussion Revolver, Dragoon Model

英国五連発官打式拳銃
イギリス アダムス M1851
官打式リボルバー ドラグーン モデル
English Adams M1851 Percussion Revolver,
Dragoon Model, Cal. 12mm, Circa 1851
Overall Length 332mm
(銃砲刀剣類登録証付古式銃)
(Serial No. 10014) ¥1,620,000(税込)【4329】

1851年に英国の銃器製造業者であったロバート・アダムス (Robert Adams) によって開発された官打式
のダブル・アクション・リボルバーです。アダムス M1851 リボルバーには、サイズの違いから、ドラグーン・
インファントリー、ポケットという三種類のバリエーションが存在し、本品は其中最も大型かつ珍しいドラ
グーン・モデルです。重量 1.3kgにも達する(重)騎兵用モデルで、サイド・ホルスターに収められました。アダム
ス・リボルバーなどヨーロッパ製銃器の多くが様々な製造業者によりライセンス生産されましたが、本品は別
印からアダムス直営工場で製造された後、直営店にて販売された品である事が判ります。



写真の銃は教育委員会発行の「銃砲刀剣類登録証」が付いた可動する実物の古式銃です。(真似物販売ではありません)

English Tranter Double Trigger Percussion Revolver



英国五連発管打式拳銃
イギリス トランター ダブル・トリガー リボルバー
English Tranter Double Trigger
Percussion Revolver with Patented Rammer
Cal. 54 Bore. Circa 1853, Overall Length 315mm
(銃砲刀剣類登録証付古式銃)
Serial No.80477) ¥3,456,000(税込)【3723】



現代のダブル・アクション・リボルバーのような完成されたメカニズムが登場する以前の過渡期の製品で、上下2箇所の引き金を使用してシングル及びダブル・アクションに近い操作を行います。この独特なトランター・リボルバーのメカニズムは「ヘジデイト・アクション」などとも呼ばれます。本個体には歯車とレバーを組み合わせた構造の珍しいローディング・レバーが取り付けられています。本ローディング・レバーが付いたモデルの現存数は非常に少なく、試作品として製造された可能性も考えられます。



English Bentley Type Percussion Revolver by Thomas S. Fletcher

本品は、ジョセフ・ベントレー (Joseph Bentley) によるダブル・アクションの патент を基に、英国グロスターのトーマス・S・フレッチャー (Thomas S. Fletcher) 社で製造された品です。フレッチャー社は1851年のロンドン万博でも入賞経験のある、小規模ながらも高品質な製品を製造していたメーカーです。ベントレー・タイプのリボルバーでは、ハンマー部分にベントレー独自の安全装置が組み込まれた品が多く見られますが、本品のようにアダムス・タイプの板バネ状の安全装置が装備された製品も少数見られます。本体左側面にはベントレー・タイプのリボルバーで一般的な、着脱可能なサイド・プレートが確認出来ます。



英国五連発管打式拳銃
イギリス フレッチャー ベントレー・タイプ
パーカッション リボルバー
English Bentley Type Percussion Revolver
by Thomas S. Fletcher
Cal. 80 Bore. Circa 1861-65
(銃砲刀剣類登録証付古式銃)
¥1,404,000(税込)【4908】



写真の部は教育委員会発行の「銃砲刀剣類登録証」が貼付された可動する実物の古式銃です。(備考欄裏面ではありません)

Belgian Lefauchaux-Francotte Pinfire Revolver

白国六連発弾目打式拳銃
ベルギー・ルフォーショ・
フランコットリボルバー
Belgian Lefauchaux-Francotte
Pinfire Revolver
Cal. 9mm, Circa 1865
Overall Length 210mm
(銃身力測定付古式銃)
(Serial No. 7228)
¥1,620,000(税込)【4539】

ベルギー・ルフォーショのオーガスト・フランコット社が
ルフォーショ・リボルバーに改良を加えてライセンス
生産したモデルです。本銃はフル・コック状態からトリ
ガーを引く事により、シンダーが僅かに回転して薬莖の
撃発ピンが撃発位置へと微調整された後でハンマーが落ち
る特殊な方式で作動します。また、携帯時にはシンダー上
の撃発ピンを避ける位置にハンマーをセットしておく事が可能と
なっており、この特殊な作動方式と本体右側面のフランコット・
パテントのセーフティを組み合わせた三重の安全構造を備えて
いるのが特徴です。

A. Francotte社パテントのセーフティ

ELEFAUCHEUX, INVR. BREVETE

French Lefauchaux M1854 Pinfire Revolver by Lefauchaux a Paris

仏国六連発弾目打式拳銃
フランス・ルフォーショ・パリ M1854
6連発リボルバー
French Lefauchaux M1854
Pinfire Revolver by Lefauchaux a Paris
Cal. 12mm, Circa 1854
Overall Length 280mm
(銃身力測定付古式銃)
(Serial No. 38573) ¥2,100,000(税込)【4914】

1854年にフランスのユージーン・ルフォーショ
(Eugene Lefauchaux) によって開発された、ピン・フ
アイ式(カニ目打式)のリボルバーです。回転式拳銃
としては初めて金属製の一体型弾薬が使用出来るよう
になり、装薬の負担/装薬を容易にする為にローデッ
グ・ゲートが追加されています。ルフォーショ・リ
ボルバーは、1857年にフランス軍によってM1854として
採用された事を皮切りに、世界各国で軍用として採用
されました。本品はフ
ランスの本来ルフォー
ショ社製のM1854リ
ボルバーで、楕円形の
トリガー・ガードと比
較的に短い銃身を備えた
フランス外人部隊タイ
プとも呼ばれるデザイ
ンとなっています。

Belgian Single Shot Percussion Target Pistol

1850年頃にベルギーで製造された中型サイズの管打ち式単発拳銃です。外観はトラバース・ピストルと呼ばれる当時一般的であった携帯用拳銃に近くなっていますが、口径が8mmという小口径のターゲット・ピストルとなっています。外観的にはバック・アクション・パーカッション・ロックと呼ばれる、ハンマーがサイド・ロック・プレートの最前部に位置する1850年代以降のスタイルとなっています。本品のような特殊なターゲット・ピストルは、主に経済的に余裕のある貴族達によって使用され、貴族階級の人々の所有物に相応しい手の込んだ作りになっています。

白国単発管打ち拳銃
ベルギー製 単発 パーカッション
ターゲット・ピストル
Belgian Single Shot Percussion Target Pistol
Cal. 8mm, Circa 1850
Overall Length 270mm
(銃剣刀納箱登録証付古式銃)
(Serial No.32/93)
¥648,000(税込)【4641】



US Burnside M1864 Breech Loading Percussion Carbine

米国単発後装弾打式騎兵銃
バーンサイド M1864 カービン
US Burnside M1864 Breech Loading Percussion Carbine
Cal. 14mm, Circa 1864
Overall Length 1,009mm
(銃剣刀納箱登録証付古式銃)
(Serial No.7264)
¥2,700,000(税込)【4604】

全米ライフル協会の初代会長であり、政治家でもあったアンブローズ・エバレット・バーンサイド氏が開発した後装弾打式の単発銃です。特殊な真鍮製カートリッジを使用する事により、銃尾からの発射ガス漏れを軽減している他、トリガー・ガード自体がブリーチ・ブロック開閉時の操作レバーとして機能するのが特徴です。本品は南北戦争末期に登場した最後のモデルで、機関部の開閉が確実かつスムーズに行えるよう、ブリーチ・ブロックの可動軸が2箇所に増やされているのが特徴です。バーンサイド・カービンは耐久性や信頼性が高かった為、連発銃が登場した後も根強く使用され続けました。



BURNSIDE RIFLE CO.
PROVIDENCE - R.I.

BURNSIDE PATENT
MODEL OF 1864

US Sharps M1865 Percussion Carbine

米国単発後装弾打式騎兵銃
シャープス M1865 カービン
US Sharps M1865
Percussion Carbine
Cal.17mm, Circa 1865
Overall Length 984mm
(銃砲刀剣類登録証付古式銃)
¥2,700,000(税込)【4438】



クリスティアン・シャープスによって1840年代に設計された南北戦争時の代表的なライフルの一つで、スパンサー銃と並び現在でも人気の非常に高い銃の1つです。本体下部のレバーを下方に操作する事によって、ブリーチ・ブロックが垂直に下降して薬室が開き、紙薬莢またはリネン薬莢の装填が可能となります。本体右側面のハンマーはアンダー・レバーとは連動せず独立しており、レバー操作とは別にハンマーのコッキングを行う必要が有ります。本品はM1865カービンと呼ばれるモデルで、南北戦争中に活躍したM1863カービンの後継モデルです。M1863カービンは約6万挺生産されたのに対し、スパンサー銃の台頭や南北戦争の終結等の理由により、M1865カービンは僅か5千挺ほどの製造に留まりました。



US Winchester M1866 Carbine

ウィンチェスター社が1866年にヘンリーライフルの欠点であったマガジンを改良し、フレーム右側面のローディング・ゲートから装填出来るようにした上で、ハンド・ガードの追加などの改良を加えて開発した、西部開拓時代のアメリカにおける著名なライフルです。M1866には銃身長が27インチのマスケット、24インチのライフル、20インチのカービンが存在し、本品は最も短いカービン(騎兵銃)モデルです。フレーム全体が真鍮製である事から一般的に「イエローボーイ」とも呼ばれている他、フレームの左側面には鞍(サドル)に銃を固定するリングが装備されているためサドル・リング・カービンとも呼ばれます。



米国十一連発後装弾打式騎兵銃
ウィンチェスター M1866 カービン
US Winchester M1866 Carbine
Cal.11mm, Overall Length 982mm
(銃砲刀剣類登録証付古式銃)
Serial No.28383
¥5,616,000(税込)【3746】



Japanese Matchlock Rifle



楠松紋三郎信立

火縄銃 井上外記流中簡
在銘・楠松紋三郎信立
Japanese Matchlock Rifle
Cal. 18mm
Overall Length 1,138mm
(銃身全長) 約1,138mm (銃身長)
¥48,000(税込) [4622]

幕府銃砲役として稲富流、田付流と共に仕えた名門砲術流派である井上外記流の中簡です。井上外記流の始祖である井上九郎正繼(通称外記)は、我が国で初めて連発銃を考案したと言われており、外記カラクリ(無双カラクリ)を発明した事でも知られています。井上流の火縄銃は、江戸前期から末期に至るまで全国的に生産されましたが、基本的には江戸初期に定められた井上流伝書の仕法に則って製作されています。井上外記流は幕府の御用銃砲役として幕末まで権威とされていましたが、銃床の形状が独特である為、後世でもよく知られるものとなっています。

British Snider-Enfield MKII Breech Loading Rifle



ブリーチはハーフ・コックの状態
で開閉が可能です。

英国単発後装弾打式小銃
イギリス スナイデル・エンフィールド
MKII 紙薬英 後装式小銃
British Snider-Enfield MKII
Breech Loading Rifle
Cal. 14.5mm, Circa 1866
Overall Length 1,240mm
(銃身全長) 約1,240mm (銃身長)
¥486,000(税込) [2703]

前装式のエンフィールド小銃を改良し、ボクサー式紙薬英を薬室側から装填可能とした後装式小銃です。1864年に英国陸軍はエンフィールド小銃の後装式への改造方法を公算し、米国人ヤコブ・スナイダー (Jacob Snider) が開発した螺番式銃尾装置を採用されました。この螺番式銃尾装置では、銃身後部 (薬室) の上半分を除去した上で、螺番により開閉可能なブリーチが取り付けられていました。可動式ブリーチ内部には撃針が組み込まれており、既存のエンフィールド小銃の撃発機構をそのまま使用可能でした。本品は当初からスナイデル小銃として製造されたMKIIモデルで、全長49インチの2バンド型となっています。

写真の銃は教育委員会発行の「銃器刀剣複製品」に於いた可動する実物の古式銃です。(許可販売ではありません)

Q:シカゴウェブサイト

で複数在庫と表示されている商品の購入を検討していますが、掲載品よりも状態の良い品はありますか？ **A:**弊社ウェブサイトには、弊社スタッフが複数在庫の中から総合的に状態が良いと判断した品から順次掲載しております。通販ご利用のお客様でウェブサイト掲載品以外の状態を知りたい方は、お電話もしくはメールにて直接お問い合わせください。

Q:

ウェブサイトに掲載されている商品で気になる品があるのですが、仕事の都合ですぐに来店や支払い手続きをする事ができません。商品の一時的な取り置きは可能でしょうか？

A:通常在庫の場合、基本的に1週間お取り置きさせていただきますが、尚、新入荷商品や複数のお客様のご予約を入れてある品につきましては、お取り置き期間を3日程度でお願いする場合がございます。

Q:無可動実銃や登録

証付古式銃で気になる商品が有のですが、東京店から大阪店(もしくは大阪店から東京店)に商品を移動した上で現物を確認する事は出来ますか？

A:ご希望商品の店舗間の在庫移動についても承っておりますので、お近くの店舗で現物を確認した上でご購入いただけます。尚、商品移動につきましては通常は一週間以内でお時間をいただく可能性がございます。

Q:無可動実銃

や登録証付古式銃の購入に際して、特別な資格や手続きは必要ですか？ **A:**弊社で販売している無可動実銃は全て銃弾用として合法的に輸入された品であり、特別な資格や手続きをいただく事なく安心してご購入いただけます。登録証付古式銃に関しては、ご購入時に名義変更が必要となりますが、こちらの書類手続きにつきましては弊社にお任せください。

Q:数十年前に他店で購入した登録証付古式銃を所有しているのですが、シカゴでの買取り金額はいくらになりますか？

A:まずは弊社までお電話またはメールにてご連絡ください。また可能であればメール等でお品物のお写真をお送りいただき、弊社専門スタッフが状態等を確認した上で大まかな査定額をお知らせ致します。具体的な査定額につきましては、直接お品物を拝見させていただいた上でお伝えする流れとなります。尚、査定前にご自身で調整や再仕上げはなさらないようお願い致します。特に真鍮部品は磨き上げると価値が下がってしまいます。

買取ります!

ステップ1

まずはお電話ください。03-5818-1123

弊社よりお買い上げ頂いた品は状態が販売時と同じであれば
販売価格の最低30%を保証します。

宅配便での送品、お持ち込みどちらでもOKです。
梱包材料の無い方は専用段ボール箱をお送り致します。

ステップ2

査定をさせていただきます。

今まで弊社で査定した品のほぼ100%の
商談が成立しています。それだけ弊社の
査定にはご満足頂いております。

査定は無料です。
お気軽にお電話ください。

ステップ3

即日、貴方の銀行口座にお振込致します。

大量にある場合は
全国どこでも
出張買取致します。

◇買取/下取りのご案内◇

買取・下取りの際は身分証明書のコピーを頂きます。ご来店の際は、必ず身分証明書(運転免許証、健康保険証、パスポート等)をご持参ください。宅配/郵送にて商品をお送りいただく場合は、身分証明書のコピーと買取代金のお振込口座情報(名義人、銀行名、支店名、口座の種類、口座番号)を明記のうえ同封してください。

●買取について

- 弊社よりお買い上げいただいた無動可動実銃は状態が販売時と同様であれば無条件で販売価格の最低30%を保証し、最高200%以上で買取致します。平均買取価格は、種類や市場相場によって変わりますが、最近では平均50%程度です。お電話での大まかな査定も出来ます。お気軽にお問い合わせください。
- 他店から購入された品であっても、正規輸入品であれば買取可能です。他店からの購入品は品を確認した後に正式な査定となります。お電話での査定額はそれを約束または、保証するものではありませんのでご了承ください。その際は購入店名(輸入業者名)をお知らせいただき、必ず身分証明書(運転免許証、健康保険証、パスポート等)をご持参ください。宅配/郵送で弊社へ直接送られる方は身分証明書のコピーを同封してください。
- アクセサリ、車銃品、書籍のみ場合は買取が出来ない場合もございますので、事前にお問い合わせください。
- 正式査定には品を宅配便でお送りいただくか、東京、大阪店へ直接お持ち込みください。梱包材料がお手元が無い方は専用段ボール箱を無料でお送り致します。この場合、査定品を弊社までお送りいただく際の送料はご負担頂きます。
- 買取が成立した後(代金ご振込み後)のキャンセルは出来ません。あしからずご了承ください。

●下取りについて

- 下取りの条件は基本的に買取りと全く同様ですが、査定を買取り価格よりも5%高く評価していただきます。ご購入予定の品によっては10%から30%買取り価格よりも高く評価出来る事もありますので、ご相談ください。
- 下取り品の代わりに購入される品が下取り品の価格より低い場合は、買取り価格と同額になります。
- 下取り品の代わりに購入される品の返品は、弊社規定の返品期間内であれば他の品との交換は可能です。しかし、返品がキャンセルになった場合は査定額は買取り価格と同額になります。

ご来店のお客様へ

- ※弊社は世界で最も多様な小火器を展示販売している無動可動実銃の専門店です。一般的な品は数多くの中からお選びいただけるように、一種類につき数個ずつ在庫を用意していますので、ぜひご来店いただき、ご自分の目で品をお確かめください。希少価値の高い品につきましては一品物もありますので、遠方よりご来店の際は予めお電話で在庫状況をご確認ください。
- ※東京上野本店、大阪店ともに年中無休です。(大阪店はお正月休みを除く)
営業時間は両店ともに12:00より20:00です。(お会計は19:30まで)
- ※各種クレジットカード(VISA, MasterCard, JCBとその提携カード(Amex, Dinersなど)、Nicors, Orico)を取り扱っております。(分割2回、ボーナス払いはこちらはご利用いただけません。)
- ※オリエン特コーポレーションの店頭決断ローン(Oricoローン)も取り扱っております。ローンをご希望の方は口座番号、銀行印と身分証明書(運転免許証、健康保険証等)をお持ちください。
- ※重機銃をお買い求めのお客様で機筒包装でのお持ち帰りご希望される方は、販売価格より1万円サービスさせていただきます。(フローニング M1919 A4機関銃など、対象外の品もありますので、お会計の前にご確認ください。)

通信販売をご利用のお客様へ

- ①お電話(TEL.03-5818-1123)、またはメール(chicago@regimentals.jp)にてご注文を受けております。
- ②弊社HPからのご注文も承っております。まずご希望の商品ページにある「ご注文受付はこちら」から「ご注文フォーム」をご送信ください。シカゴレジメンタルス <http://www.regimentals.jp>
- ③ご注文受付後、在庫を確認した上で折り返し弊社よりご連絡致します。なお無動可動実銃の送料は弊社でサービスさせていただきます。
- ④お支払い方法は下記の通りです。ご送金またはご入金いただいた場合は確認の為に、必ずお電話またはメールにて東京上野本店まで早急にお知らせください。(送品業務を円滑にするために事故を防ぐためにも宜しくお願い致します。)
- ◆銀行送金の場合
三井住友銀行 江坂支店 普通口座296764 名義人 株式会社シカゴレジメンタルス
ゆうちょ銀行 記号10130 番号87425981 名義人 株式会社シカゴレジメンタルス
- ◆現金書留の場合
〒110-0005 東京都台東区上野1-12-7 (The シカゴビル)
株式会社シカゴレジメンタルス TEL.03-5818-1123
- ◆クロネコヤマト コレクトサービス(代金引き替え)の場合
14:00までにご注文を頂ければ一部地域を除き翌日配達が可能です。
※送品の場合は送料の他に代引手数料もご負担いただきますのでご了承ください。
(注1)銀行にお金入れ頂いた15:00を過ぎると翌日入金となることもありますので、その場合は翌日配達となります。
(注2)通常翌日には配達されますが、一部の地域ではそれ以上に日数のかかる事もありますのでご了承ください。

★通信販売の送料・代引手数料について

- ※ご購入金額が3万円(税込)以上の場合は、送料・手数料ともにサービスさせていただきます。
- ※ご購入金額が3万円(税込)未満の場合は、500円の送料をご負担頂いております。
また、コレクトサービス(代金引き替え)の場合は、送料500円+代引手数料500円=合計1000円をご負担下さい。

◆クレジットカードでお支払いの場合

通信販売でも店頭とほぼ同じ各種クレジットカードをご利用いただけますが、一部ご利用いただけないカードがございますので、お問い合わせください。

◆Oricoローンをご利用の場合

通信販売でもOricoローンをご利用いただけます。簡単な手続きで分割払いが可能です。また金利もクレジットカードより低くお得です。(分割回数は、webオリコが3回〜60回、専用紙記入によるお申し込みが60回〜60回となります。)

⑤ご注文頂いた品が店頭在庫とある場合は、ご送金・ご入金確認後、または決済完了後に商品便にて発送致します。

※弊社取り扱いの商品は書籍とスコープを除き全て返品が可能ですので、通信販売でも安心してご購入いただけます。もし商品にご満足頂けない場合は、商品を受け取れてから7日以内にご連絡の上、ご返送ください。お送りいただいた金額より送料、各種手数料(代引手数料・振込手数料など)を差し引いた金額を返金致します。(但し、古い品ですので返品は常規的な回数でお願い致します。)

表示価格は消費税8%を含めた価格です。

●ご不明な点がありましたら東京上野本店までお気軽にお問い合わせください。

無可動実銃について

無可動実銃とは実物の銃に対して発射機能を排除する加工を海外で施し、装飾用として合法的に輸入された品です。

輸入された時期によって多少の違いはありますが、下記の加工は最低限施されているのが無可動実銃の条件です。

- * 銃身内部に鉄製のインサートが銃口から薬室まで挿入されて塞がっており溶接によって抜くことができないこと。
- * 薬室と銃身にスリットが入っていること。
- * 薬室は溶接によって塞がっており装填は出来ないこと。
- * ボルトの一部若しくは半分を除去して使用不可能にし、機関部本体に溶接で固定されていること。
- * 引き金を除く、トリガー・メカニズムの一部、若しくは全てを取り外していることです。

平成 10 年以降に輸入された品はより厳しい加工が施されておりあります。

古式銃砲について

下記の銃砲刀剣類所持等取締法第十四～十八条（抜粋）に基づき、教育委員会によって「銃砲刀剣類登録証」が交付された古式銃は合法的に所持が認められています。

第十四条 都道府県教育委員会は、美術品若しくは骨とう品として価値のある火薬式銃砲等の古式銃又は美術品として価値のある刀剣類の登録をするものとする。

- 2 銃砲又は刀剣類の所有者（所有者が明らかでない場合にあつては、現に所持する者、以下同じ。）で前項の登録を受けようとするものは、文部科学省令で定める手続により、その住所の所在する都道府県教育委員会に登録の申請をしなければならない。
- 3 第一項の登録は、登録審査委員の鑑定に基づいてしなければならない。
- 4 都道府県教育委員会は、第一項の規定による登録をした場合においては、速やかにその旨を登録を受けた銃砲又は刀剣類の所有者の住所を管轄する都道府県公安委員会に通知しなければならない。
- 5 第一項の登録の方法、第三項の登録審査委員の任命及び職務、同項の鑑定の基準及び手続その他登録に関し必要な細目は、文部科学省令で定める。

（登録証）

第十五条 都道府県教育委員会は、前条第一項の登録をする場合においては、登録証を交付しなければならない。

- 2 登録を受けた銃砲又は刀剣類を所持する者は、登録証を亡失し、若しくは盗み取られ、又は登録証が滅失した場合においては、文部科学省令で定める手続により、速やかにその旨を当該登録の事務を行った都道府県教育委員会に届け出てその再交付を受けなければならない。
- 3 登録証の様式及び再交付の手続は、文部科学省令で定める。

（登録を受けた銃砲又は刀剣類の譲渡、相続、貸付け又は保管の委託の届出等）

第十七条 登録を受けた銃砲又は刀剣類を譲り受け、若しくは相続により取得し、又はこれらの貸付け若しくは保管の委託をした者は、文部科学省令で定める手続により、二十日以内にその旨を当該登録の事務を行った都道府県教育委員会に届け出なければならない。貸付け又は保管の委託をした当該銃砲又は刀剣類の返還を受けた場合においても、また同様とする。

- 2 登録を受けた銃砲又は刀剣類を試験、研究、研習若しくは修理のため、又は公衆の観覧に供するため貸し付け、又は保管の委託をした場合においては、前項の規定にかかわらず、届出を要しない。
- 3 都道府県教育委員会は、第一項の届出を受理した場合においては、速やかにその旨を当該届出に係る銃砲又は刀剣類の所有者の住所を管轄する都道府県公安委員会に通知しなければならない。

第十八条 登録を受けた銃砲又は刀剣類を譲り渡し、貸し付け、若しくはこれらの保管を委託し、又はこれらを他人をして運送させる者は、当該銃砲又は刀剣類の登録証とともにしなければならない。

- 2 登録を受けた銃砲又は刀剣類を譲り受け、借り受け、又はこれらの保管の委託を受ける者は、当該銃砲又は刀剣類の登録証とともにしなければならない。
- 3 何人も、当該銃砲又は刀剣類とともにする場合を除いては、登録証を譲り渡し、又は譲り受けてはならない。

Belgian Lefauchaux Pinfire Pocket Revolver



白銅六連発露目打式小型拳銃
ベルギー・ルファウショ
ポケットリボルバー
Belgian Lefauchaux Pinfire
Pocket Revolver
Cal. 8mm, Circa 1865-68
Overall Length 219mm
銃威力新値付付付付付
¥1,888,000(税込)(4010)



ベルギーのリュージュで製造されたシングル/ダブルアクション・タイプのリボルバー。リボルバーです。女性のポーチにも収まるように小型化されていますが、ポケットモデルとしては若干大振りなサイズとなっています。本体は当初よりニッケル鍍金が施されています。トリガー・ガードは装備されておらず、トリガーが折り畳み可能となっています。本品には非常に珍しい銃のシルエットを模った黒革製バースが付属します。バースの内張りには片面がブルー・バベルベット、もう一方がブルー・シルク製となっています。彼のシルエットを模ったバースは特定の形状及びサイズの銃しか入らない、オリジナルの銃本体とバースのセットは特に希少価値が高い物となっています。



写真の銃は教育委員会発行の「銃砲刀剣類登録証」が交付した可動する実物の方式銃です。（無可動銃ではありません）

The Chicago *Gallery* (ザ・シカゴ ギャラリー)

日本唯一の登録証付古式銃の専門店です。

東京上野本店一階で古式銃だけを130挺以上取り揃えています。

各都道府県教育委員会から交付された「銃砲刀剣類登録証」付きの古式銃は
名義変更のみでどなたでも所持が可能です。

ザ・シカゴ ギャラリーは予約制になっておりますが、弊社で過去に古式銃を
お買上げいただいたお客様にはご自由にご覧いただけます。新規のお客様でも古式銃の
ご購入をお考えでしたら、東京上野本店二階受付にてお申し出ください。

*登録証付古式銃についての詳細(銃砲刀剣類所持等取締法)は小誌P.105をご参照ください。

The Chicago *Gallery*
Specializing in
Registered Antique Firearms
By Appointment Only

